

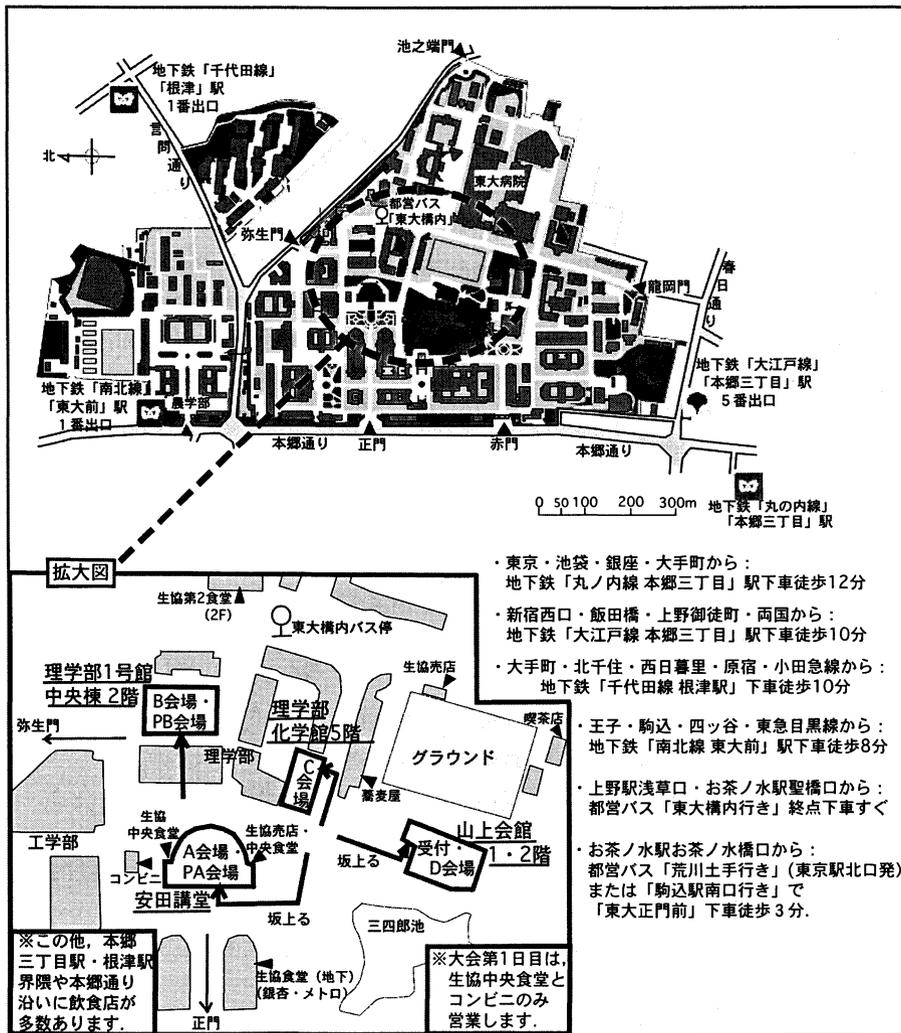
# 日本気象学会 2005年度春季大会

会期：2005年5月15日（日）～18日（水）  
 会場：東京大学本郷キャンパス（東京都文京区本郷7-3-1）

大会実行委員会担当機関：東京大学大学院理学系研究科，東京大学先端科学技術研究センター，  
 東京大学海洋研究所  
 大会委員長：近藤 豊（東京大学先端科学技術研究センター）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局（東京大学山上会館2階203号室）  
 TEL・FAX (03) 5841-2333  
 ※大会参加者への伝言（FAXも含む）は，山上会館2階の受付付近の掲示板  
 に掲示します。取り次ぎはいたしませんのでご承知お願いします。

## 会場案内図



## 大会行事予定

<b>A会場</b>	: 安田講堂大講堂 (3F)	総会・記念講演・公開講演会・シンポジウム
<b>B会場</b>	: 小柴ホール (理学部1号館中央棟2F)	: 安田講堂大講堂 (3F)
<b>C会場</b>	: 化学教室講堂 (理学部化学館5F)	企業展示会場: 安田講堂大講堂前廊下 (A会場前)
<b>D会場</b>	: 山上会館大会議室 (2F)	受付: 山上会館 (第1日目: 1F; 第2日目以降: 2F)
<b>PA会場</b>	: 安田講堂廊下 (4F)	大会事務局: 山上会館203号室 (2F)
<b>PB会場</b>	: 理学部ラウンジ (B会場前)	懇親会: 山上会館談話ホール (1F)

		A会場	B会場	C会場	D会場
5月15日 (日)	10:00 ~ 11:15	気候システムI (7, A101 ~ A107)	物質循環I (7, B101 ~ B107)	熱帯大気I (7, C101 ~ C107)	中層大気 (7, D101 ~ D107)
	11:15 ~ 12:15	ポスター・セッション PA会場 (31, P101 ~ P131), PB会場 (36, P151 ~ P186)			
	14:00 ~ 18:00	シンポジウム「地球環境の進化と気候変動」			
5月16日 (月)	09:30 ~ 11:30	気候システムII (10, A201 ~ A210)	物質循環II (10, B201 ~ B210)	熱帯大気II (8, C201 ~ C208) 気象教育 (1, C209)	相互作用 (10, D201 ~ D210)
	11:30 ~ 12:30	ポスター・セッション PA会場 (31, P201 ~ P231), PB会場 (36, P251 ~ P286)			
	13:30 ~ 17:00	専門分科会 (16, A251 ~ A266) 「日本における再解析: ~作る立場から、利 用する立場から~」	専門分科会 (8, B251 ~ B258) 「メソ対流系」研究 の到達点とこれから」	専門分科会 (7, C251 ~ C257) 「顕著現象の予測可能 性」	専門分科会 (6, D251 ~ D256) 「複雑多様な陸面諸過 程の全体像の把握はど こまで可能か?その方 策を模索する。」
5月17日 (火)	09:30 ~ 11:30	気候システムIII (11, A301 ~ A311)	物質循環III (10, B301 ~ B310)	降水システムI (12, C301 ~ C312)	大気力学I (11, D301 ~ D311)
	11:30 ~ 12:30	ポスター・セッション PA会場 (31, P301 ~ P331), PB会場 (36, P351 ~ P386)			
	14:00 ~ 15:20	総会			
	15:30 ~ 17:30	学会賞・藤原賞受賞記念講演			
	18:00 ~ 20:00	懇親会			
5月18日 (水)	09:30 ~ 11:30	気候システムIV (12, A401 ~ A412)	気象予報 (10, B401 ~ B410)	降水システムII (12, C401 ~ C412)	大気力学II (5, D401 ~ D405) 観測手法 (6, D406 ~ D411)
	11:30 ~ 12:30	ポスター・セッション PA会場 (31, P401 ~ P431)			
	13:30 ~ 17:00	専門分科会 (16, A451 ~ A465) 「2004年の台風はなぜ 異常だったか?」	/	専門分科会 (15, C451 ~ C465) 「降水量の推定原理と 降水量データの利用」	専門分科会 (18, D451 ~ D468) 「雪氷圏と気候」

発表件数: 474件 (専門分科会 86, 口頭発表 156, ポスター 232)

大会参加費: 郵便振替による前納の場合 一般会員 3,000円, 学生会員 2,000円;  
当日受付の場合は 一般会員 4,000円, 学生会員 3,000円, 非会員 4,000円。

ただし、自費で第一日(5月15日)にだけ参加する方については、会員・非会員とも2,000円とします  
(この場合、前納はできません。当日受付にてお払い下さい)。

懇親会費: 郵便振替による前納の場合 一般会員 4,500円, 学生会員 3,500円;  
当日払いの場合は 一般会員 5,500円, 学生会員 4,500円, 非会員 5,500円。

大会当日は混雑しますので、極力前納されるようお願いいたします。

なお郵便振替用紙は「天気」2004年12月号の末尾に挿入されたものを使い、5月6日(金)までに振り込んで下さい。

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1 気象研究所予報研究部内 講演企画委員会  
(e-mail:org-msj@mri-jma.go.jp)まで。

## 講演の方法

### 専門分科会

- ・持ち時間は各分科会毎に決められています。詳細は各分科会のプログラムをご覧ください。

### 一般口頭発表

- ・持ち時間は9分（講演7分・質疑2分）です。

### ポスター発表

- ・概要紹介は行われません。
- ・講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、幅0.9 m×高さ1.5 mとなっています。
- ・ポスターの掲示にあたって紙、ピンが使用できませんが、糊、テープ等は使用できません。必要な紙、ピンは各自で用意して下さい。
- ・ポスターの掲示可能時間は発表日の09:30 - 16:30となっています。会場の都合上時間厳守をお願いします。

### 機器の使用について

#### 専門分科会・一般口頭発表

- ・PCプロジェクターと書画カメラ（A・B会場）もしくはOHP（C・D会場）が使用できます。
- ・A・B会場で使用する書画カメラは、コピー用紙等の普通紙を投影可能なプロジェクターです。OHP

シートの投影も可能ですが、普通紙を利用した方がきれいに投影できます。

- ・止むを得ない事情で使用機器が講演申込時に予め届け出ていた機器（講演題目の最後に[OHP]もしくは[書画カメラ]と記載してある講演はそれぞれの機器を使用、記載がない講演はPCプロジェクター使用）と異なる場合は、セッション開始前までに座長と会場係にその旨を申し出て下さい。
- ・PCプロジェクターを使用する際は予め以下の点をご了承ください。
  - －パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
  - －セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
  - －突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で、発表順を繰り下げたりOHPもしくは書画カメラによる発表に切り替えさせて頂くことがあります。OHPシートなどを予め準備しておくなど、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

#### ポスター発表

- ・ポスター会場での機器の使用は講演申し込み時に申し出ていたもの以外は原則として認められません。

## シンポジウム「地球環境の進化と気候変動」

日時：大会第1日（5月15日）14:00～18:00

会場：東京大学 安田講堂大講堂（3F）

司会：松本 淳（東京大学大学院理学系研究科）

**※シンポジウムの聴講は無料です**

### 趣旨

将来の気候や表層環境の変化を考えるための礎として、東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻で現在進行中の21世紀COEプログラムの成果も含め最新の知見を紹介しながら、地球誕生以来の大気や海洋など表層環境の変遷を学際的な広い視野で展望する。尚、本シンポジウムは、日本気象学会地球環境問題委員会との共催で行なわれる。

### 基調講演

- |                                     |              |
|-------------------------------------|--------------|
| 1) 「地球環境の変遷：比較惑星学の視点から」             | 阿部 豊（東京大学）   |
| 2) 「酸素濃度の増大とスノーボールアース・イベント」         | 田近英一（東京大学）   |
| 3) 「チベット高原の上昇とアジアモンスーンの変化」          | 安成哲三（名古屋大学）  |
| 4) 「アジア・モンスーンの変動とダンスガード-オシュガー・サイクル」 | 多田隆治（東京大学）   |
| 5) 「サンゴが語る過去の気候変動」                  | 茅根 創（東京大学）   |
| 6) 「変動する地球気候」                       | 山形俊男（東京大学）   |
| 7) 「オゾンホール科学」                       | 小池 真（東京大学）   |
| 8) 「地表環境の変遷と文明」                     | 福澤仁之（東京都立大学） |

### 総合討論

## 総 会

日時:大会第3日(5月17日)14:00～15:20

会場:東京大学 安田講堂大講堂(3F)

### 議事次第:

- 1.開会の辞
- 2.議長選出
- 3.理事長挨拶
- 4.学会賞授与
- 5.藤原賞授与
- 6.2004年度事業報告

- 7.2004年度会計報告
- 8.2004年度監査報告
- 9.2005年度日本気象学会総会議案
- 10.2005年度事業計画案
- 11.2005年度予算案の審議
- 12.議長解任

## 専門分科会の概要紹介

2005年度春季大会では下記の通り,7件の専門分科会が開かれます。

### 日本における再解析: ~作る立場から、利用する立場から~

日時:大会第2日(5月16日)13:30～17:00

場所:A会場

**趣旨:**再解析は、過去の期間を対象に、最新のデータ同化システムを使用して、気候研究・季節予報用の均質・高品質の気候データを作成するために実施する。既にECMWFとNCEPが長期再解析を実施しているが、日本でも、気象庁と電力中央研究所が共同で長期再解析JRA-25(<http://www.jreap.org>)を実施中で、既に一部プロダクトは公開・利用可能である。他に、日本では1998年を対象としたGAME再解析が実施され、現在、RR2002共生プロジェクトの大気海洋結合同化が進行中である。このセッションでは、日本で行なわれている上記の再解析に関連して、

- \* プロジェクトのねらいや進行状況の紹介
  - \* 再解析の技術的問題や再解析データの特質・注意点
  - \* 公開されているプロダクトの比較・評価やそれを用いた研究
  - \* 新しい観点からの再解析データの利用の構想などについての講演を募集(一部は依頼)する。
- 再解析の作成者と利用者との建設的な相互作用の活発化を期待したい。

**コンピーナー:**山崎信雄(気象研究所), 筒井純一(電力中央研究所), 小出寛(気象庁), 増田耕一, 望月崇(地球環境フロンティア研究センター)

### 「メソ対流系」研究の到達点とこれから

日時:大会第2日(5月16日)13:30～17:00

場所:B会場

**趣旨:**1998年から5年間にわたって科学技術振興機構・戦略的創造研究推進事業「メソ対流系の構造と発生・発達メカニズムの解明」(戦略「メソ対流系」と略

記)において豪雨・豪雪に関する研究を推進し、その結果、複数の豪雨・豪雪の事例を解析することにより、メソ対流系の機構がかなりはっきりと分かってきた。また雲解像非静力学モデルを用いることでそれらが数時間～1日のリードタイムで予測できるまでになった。

この専門分科会では、戦略「メソ対流系」の到達点をレビューして今後の発展の方向を眺めてみるつもりである。そのために講演者の時間はなるべく多く取って十分に議論を尽くしたいと考えているので、招待講演主体となる予定である。

**コンピーナー:**吉崎正憲(気象研究所)

### 顕著現象の予測可能性

日時:大会第2日(5月16日)13:30～17:00

場所:C会場

**趣旨:**WMOが2003年5月から10年計画で実施している、観測システム研究および予測可能性実験計画THORPEXは、1日から2週間先までの社会的・経済的に影響を与える顕著現象の予報改善を目指している。台風や集中豪雨、豪雪など、我が国における顕著現象は、国民の生活と安全に大きな影響を与えている。そこで、本分科会では、「予測可能性」をキーワードとして、1日から2週間先までの顕著現象の予報に関連するさまざまな内容について議論を行う。データ同化や衛星データの利用、アンサンブル予報などの現状や問題点から、顕著現象の局地的な構造の解析や大規模場・総観場との関連に関する研究、さらには、熱帯季節内変動や中緯度のロスビー波束伝搬などの大規模場が顕著現象を引き起こすメカニズムなどまで、幅広くカバーしたい。

**コンピーナー:**大淵 済(地球シミュレータセンター), 中澤哲夫(気象研究所), 余田成男(京都大学理学部), 榎本 剛(地球シミュレータセンター)

## 複雑多様な陸面諸過程の全体像の把握はどこまで可能か？その方策を模索する。

日時：大会第2日(5月16日) 13:30～17:00

場所：D会場

**趣旨：**地球温暖化を始めとする地球環境問題への関心の高まりに伴い、大気-陸面相互作用のメカニズムの解明とその相互作用による地球環境変動の将来予測に対する社会的要請が強まっている。陸面における諸過程は、その物理学的側面と生態学的側面の共存により、サブグリッドスケールから大陸スケールまでの時間的・空間的にさまざまな規模の現象が混在しており複雑多様である。その不均一性の高さが、陸面過程の理解の難しさの大きな原因の一つとなっている。近年、観測技術の進化とモデル技術の進化(計算機能力の向上)により、陸面における現象を多角的に捕らえ、その一般性を見出し、陸面諸過程の全体像を把握しようとする努力が盛んに行われ始めている。本専門分科会においては、6名の招待講演者を招き、間接測定(衛星観測、航空機観測)、直接測定(プロットスケール観測網の展開、グラントゥルースデータの取得)、およびモデリング(パラメタリゼーションアルゴリズムの開発・改良)の各分野における現状と今後の課題を紹介していただき、観測による現象把握と観測とモデルの融合、およびそれらによるスケール間ギャップの解消を通して、陸面諸過程の真の全体像を把握するための方策について議論を深めたいと考える。なお、本分科会においては、総合討論を重視する観点から、講演は招待講演のみとする。

**コンピーナー：**馬淵和雄(気象研究所)、渡辺 力(森林総合研究所)、桑形恒男(農業環境技術研究所)、西田 郎郎(筑波大学)

## 2004年の台風はなぜ異常だったか？

日時：大会第4日(5月18日) 13:30～17:00

場所：A会場

**趣旨：**2004年、6月に二つの台風が四国に上陸したのをはじめとして10月20日までに上陸数10個(台風第4, 6, 10, 11, 15, 16, 18, 21, 22, 23号)と日本列島は記録的な数の台風の襲来を受け、強風や大雨、高潮などによる大きな災害が全国各地で相次いで発生した。2004年は上陸数が多かっただけでなく、台風が強い勢力のまま日本列島に接近し上陸したというのが1つの特徴でもあった。本分科会では、そういった特異な台風シーズンを振り返り、台風の発達機構、台風が発生・移動した環境場や上陸前後の台風の構造変化、台風に伴うメソ現象や高潮、台風によって引き起こされた災害等について、その特徴や予測可能性など様々な観点から議論を行い、2004年台風シーズンの特異性について認識を深める。

**コンピーナー：**上野 充(気象研究所)、萬納寺信崇(気象庁予報課太平洋台風センター)

## 降水量の推定原理と降水量データの利用

日時：大会第4日(5月18日) 13:30～17:00

場所：C会場

**趣旨：**降水量の推定は、地上レーダーのみならず、TRMMやAMSR-Eなどのセンサーにより宇宙からも行われてきている。また、気象庁ではレーダーアメダス合成図も作成されている。さらに、世界的には、GPCPやCMA Pなど、多くの「降水量格子点データ」が入手可能となっている。しかし、それらのデータについて、その推定原理や精度などについては、必ずしも十分に理解されているとは言えない状況にあるのではないかと。そこで、これらのデータを利用・作成している人に、一同に会してもらい、データの特長、長所、問題点、今後の改善予定などについて話し合う場としたい。さらには、これらの推定データに対して、水管理、水文学、海洋学、農業、電力、地方自治体など、多くのユーザーから、降水量データ利用の現状、問題点、データへの要望などを交流できる場としたい。

**コンピーナー：**中澤哲夫(気象研究所)

## 雪氷圏と気候

日時：大会第4日(5月18日) 13:30～17:00

場所：D会場

**趣旨：**気候システムの一因子として雪氷圏が重要な役割を果たしてきていることは一般的に知られている。そして、温暖化過程で雪氷がどのように変化し、それが気候システム全体にフィードバックするかについて関心が集まっているにもかかわらず、十分な精度で測定され、現象が理解されているとは言いがたい。ちょうど、国際的な枠組みでWCRP-CLIC「気候と雪氷圏」計画が推進され、組織的研究が開始しようとして時期に、国内のコミュニティとしても、このテーマを概観し、課題を抽出し問題点を明らかにすることが重要ではないかと考え、企画した。一部レビューを考えているが、以下のテーマに沿った発表を募集する。

- (1) 積雪、海氷、氷床と大気との相互作用
- (2) 雪氷域における陸面過程
- (3) 水・エネルギー循環における雪氷の役割
- (4) GCMにおける雪氷表現の現状
- (5) 雪氷変動の実態
- (6) 雪氷域のリモートセンシング

**コンピーナー：**大畑哲夫(地球環境観測研究センター)、山崎孝治(北海道大学大学院地球環境科学研究科)、共催：極域・寒冷域研究連絡会

## 第1回 日本・中国・韓国気象学会共催の国際シンポジウムのお知らせ

かねてより、日本、中国、韓国の気象学会の間では、学会間交流を促進したいと考えて議論を続けてきました。その一環として、今回、日本気象学会春季大会に合わせて、三学会共催の国際シンポジウムを持ちたいと考えています。興味をお持ちの方はぜひご参加ください。

日時： 2005年5月13日(金)、14日(土)

場所： 東京大学山上会館、および、小柴ホール（理学部1号館中央棟2F）

（気象学会と同じ会場です。）

テーマ： 東アジアにおける大気科学

今回は、招待講演を中心にプログラムが組まれますが、一部、コメントとして発表可能です。

プログラムの概要は、13日の午前中は全体会議、13日の午後から、第1会場（気象、気候）と第2会場（物質循環）に分かれて行われる予定です。詳細は、追って、学会のホームページ等に紹介します。

## 研究会のお知らせ

大会期間中に以下の研究会が予定されています。興味のある方はご自由にご参加下さい。

### 極域・寒冷域研究連絡会

日時： 2005年5月18日（水）17:15～2時間程度

場所： 山上会館大会議室（大会D会場）

話題： 雪氷圏のモデリング

講演者及びタイトル：

- ・「気象庁全球モデル・領域モデルにおける現状の雪氷表現と今後の課題」  
平井雅之（気象庁数値予報）
- ・「GCMによる極域水循環」  
保坂征宏（気象研）
- ・「結合モデル CFES における雪氷圏の取り扱い」  
小守信正（地球シミュレータ）
- ・「季節海氷域の特徴 ～オホーツク海の海氷観測から～」  
豊田威信（北大低温研）

今回の極域・寒冷域研究連絡会は、「雪氷圏のモデリング」と題しての特集を行います。大気海洋現象の予測や研究には、大循環モデルや領域モデルは、もはや不可欠

のものとなっています。モデリングに際しては、積雲対流スキームなどに代表されるように、どうしても関心が熱帯に向かいがちですが、気象現象や気候の予測及び研究のためには、モデル内での雪氷圏の取り扱いも重要であることは論を待ちません。そこで、気象庁現業モデルでの雪氷圏の取り扱い、GCMでの極域水循環、結合モデルでの雪氷圏の取り扱い、及び季節海氷域のモデリングを行うにあたって重要となる観測事実などのテーマについて、様々なお立場から雪氷圏のモデリングに関わる研究をなさっている

4人の方々に講演していただきます。

代表： 山崎孝治（北大院地球環境）

世話人： 平沢尚彦（極地研）、中村 尚（東大理）、  
浮田甚郎（コロンビア大）、高田久美子（FRCGC）、  
阿部彩子（東大気候システム）、佐藤 薫（極地研）、  
本田明治（FRCGC）、齋藤冬樹（東大気候システム）、  
高谷康太郎（FRCGC）

問い合わせ先： 高谷康太郎（FRCGC）

TEL: 045-778-5526, FAX: 045-778-5707,

E-mail: takaya@jamstec.go.jp

## 保育施設斡旋について

大会実行委員会では例年通り保育施設の斡旋を行います。ただし、キャンパス近くにある保育施設は日曜休業で、2日目以降の利用に限られます。また、余りに多くの人数は施設に収容できませんので、斡旋は先着順とさせていただきます。予めご了解下さい。

連絡先： 小澤裕紀子（東京大学理学部） E-mail: yukiko@eps.s.u-tokyo.ac.jp

TEL: (03) 5841-8333; FAX: (03) 5841-8316

## 秋季大会の予告

2005年度秋季大会は、2005年11月20日(日)～22日(火)に神戸大学(神戸市)で開催される予定です。

## 大会第1日 [5月15日] 10:00 ~ 11:15 一般口頭発表

(~~~~は講演者を表す)

## A 会場

## 気候システムI

座長：楠 昌司(気象研)

- A101 岡本創・西澤智明(東北大院理)他 5名 雲レーダとライダーを用いた気候モデルの評価手法
- A102 二宮洸三・江守正多(FRCGC)他 3名 大気気候モデル梅雨前線降水系と実梅雨前線降水系の相違
- A103 太楽浩司(防災科研)・江守正多(環境研) 温暖化による日降水分布の変化に対する力学、熱力学的効果
- A104 野原大輔(JST/気象研)・鬼頭昭雄(気象研)他 3名 温暖化に伴う河川流量変動の評価
- A105 岡本健一(京大理)・木田秀次(京大院理)他 1名 地球温暖化時の成層圏における南北両半球の違い
- A106 本井達夫・鬼頭昭雄(気象研) 気候モデルによる完新世中期(6千年前)の気候再現実験
- A107 村上茂教(FRCGC)・鬼頭昭雄(気象研) 最終氷期の始まりに関する結合モデルシミュレーション

## B 会場

## 物質循環I

座長：秋吉英治(環境研)

- B101 佐伯浩介(神戸大総合人間)・中島英彰(環境研)他 2名 ILAS-II 観測による 2003 年冬季南極成層圏脱室メカニズムの解析
- B102 中島英彰・齋藤尚子(環境研)他 3名 ADEOS-II 搭載 ILAS-II による 2003 年南極オゾンホール解析
- B103 秋吉英治・菅田誠治(環境研)他 4名 化学輸送モデルを用いた 94/95 95/96 96/97 年冬の北半球中高緯度域オゾン破壊の緯度別解析
- B104 忠鉢繁(気象研) 北半球オゾン「ミニ」ホールの統計的考察
- B105 太島長・小池真(東大院理)他 10名 春季西太平洋におけるオゾンの光化学的生成・人為的窒素酸化物の輸送とその影響
- B106 林ひとみ・北和之(茨城大理)他 3名 熱帯域対流圏オゾンの増大現象と中緯度からの高濃度オゾンの輸送
- B107 福田真人・近藤豊(東大先端研)他 6名 関東地方における夏季の高濃度オゾン出現に関する研究

## C 会場

## 熱帯大気I

座長：塩谷雅人(京大生存研)

- C101 横森淳一・高藪縁(東大気候システム) 高層ゾンデデータ解析による積雲対流活動の子午面循環への影響の解析
- C102 横森淳一・高藪縁(東大気候システム) 熱帯西部太平洋およびインドシナ半島における大気成層の特徴と積雲対流活動への影響の統計解析
- C103 小石和成・塩谷雅人(京大生存研) CEPEX 期間にみられた熱帯対流圏近傍の水蒸気変動
- C104 山田由貴子(北大理)・三瓶岳昭(東大理)他 6名 大気大循環モデルで表現される赤道域降水活動の解像度依存性
- C105 横井寛・里村雄彦(京大院理) ベンガル湾上における 10-25 日周期渦擾乱の北進メカニズム
- C106 米山邦夫・勝保昌己(IORGC)他 1名 MJO 対流活発期における 100km 規模の大気鉛直構造の特徴
- C107 百瀬晴行(個人会員) マデンジュリアン振動周期 45 日は固有振動周期?

## D 会場

## 中層大気

座長：伊藤久徳(九大理)

- D101 山木美弘・伊藤久徳(九大理) 成層圏の変動をいかなる枠組みでとらえるべきか
- D102 初鹿宏壮・筒井純一(電中研)他 1名 JRA-25 再解析データにおける成層圏の再現
- D103 中川憲一・山崎孝治(北大院地球環境) 成層圏突然昇温が対流圏に及ぼす影響の決定要因
- D104 長瀬親生・阿保真(都立大院工)他 1名 ライダーによる赤道上空の気温観測
- D105 渡辺真吾(FRCGC)・佐藤薫(極地研)他 1名 南極のカタバ風が励起する大気内部重力波とその中層大気への影響
- D106 内藤陽子・余田成男(京大院理) 赤道 QBO の影響の統計的有意性—大標本に基づいた評価—
- D107 柴田清孝・出牛真(気象研) 熱帯成層圏準 2 年振動(QBO)のシミュレーション：その 3 QBO の中高緯度への影響 (於 Interactive オゾンラン)

## 大会第1日〔5月15日〕11:15～12:15 ポスターセッション

(~~~~は講演者を表す。)

## PA会場

- P101 東博紀・松浦知徳(防災科研) Nino3 海域の海面水温変動と東京における台風性豪雨の発生頻度の関係
- P102 松本優子・中山大地(都立大理)他1名 台風が異常経路と典型経路をとるときの循環場の比較
- P103 高橋清利(気象研) インド付近における日変化と季節内変動
- P104 飯塚駿・松浦知徳(防災科研)他2名 結合モデルに見られる ENSO と台風発生数との関係
- P105 山本真之(京大生存研)・庭野将徳(京大理)他3名 インドネシア・スマトラ島で対流活動を形成するいくつかの要因について
- P106 高橋千陽・上田博(名大地球水循環)他2名 西太平洋赤道域の下層西風域で観測された MJO 内部の降水システムの構造と発達過程
- P107 井上忠雄(筑波大生命環境科学)・木内保太(筑波大自然科学類)他2名 夏季晴天時に都市で発達する対流雲の生成要因
- P108 栗田進(気象研) 局在する都市キャノピーの風洞実験
- P109 柳原保志(信州大)・成田剛真(長野市立篠ノ井西中) 建物の高層化がヒートアイランドに及ぼす影響
- P110 長谷川寛・石原幸司(気象庁気候情報) ヒートアイランドと地球温暖化の相互作用について—都市気候モデルを用いた解析—
- P111 石井伸幸・福岡義隆(立正大地球環境科学) 降水後日と連続晴天日のヒートアイランドの違いとその成因
- P112 大板博司・河崎善一郎(大阪大院)他2名 TRMM データを用いた雷活動・降水の全球分布に関する一考察
- P113 柳瀬亘(東大気候システム)・阿部彩子(東大気候システム/FRCGC)他2名 大気海洋結合モデルで再現された最終氷期極大期における東アジア・北太平洋の大気循環
- P114 佐々木秀孝・栗原和夫(気象研)他3名 水平解像度 20km 全球モデルと気象研究所地域気候モデルによる現在気候再現性の比較
- P115 関隆則(日本気象予報士会) 気温日較差のパワースペクトルと季節の対応
- P116 冨田智彦(熊本大理/FRCGC) 梅雨期の降水偏差に先行する表層温度変動
- P117 福田義和(気象庁気候情報)・石井正好(FRCGC) 歴史的海面水温客観解析値の cross validation による品質評価
- P118 山鹿康平・谷貝勇(気象大)他1名 大気大循環モデルでシミュレーションされた日本の冷夏について
- P119 廣田清郎(東大気候システム)・高橋正明(東大気候システム/FRCGC)他1名 梅雨期における最近25年間の東アジアの気圧変化
- P120 史村憲司・近藤豊(東大先端研)他 東アジアの冬季—春季光化学オゾン生成と前駆物質の関係
- P121 江尻省(環境研)・寺尾有希夫(ハーバード大)他6名 ILAS-II 観測による N<sub>2</sub>O と CH<sub>4</sub> のデータ質検証
- P122 山本鉦・檜山哲哉(名大地球水循環)他5名 中国淮河中流域における地表面熱収支と大気境界層構造に関する研究
- P123 杜明遠・米村正一郎(農環研)他7名 パッチ領域内のダスト鉛直フラックス推定の試み(ダスト水平フラックスから鉛直フラックスの推定)
- P124 荒生公雄・石坂丞二(長崎大)他6名 長崎県地方における黄砂を含む大気エアロゾルの光学的・物理的特性
- P125 宮川拓真・近藤豊(東大先端研)他3名 東京における硫酸塩エアロゾルの生成・消失過程
- P126 宮崎雄三・近藤豊(東大先端研)他3名 PILS を用いた水溶性有機エアロゾルの実時間測定
- P127 村山具平・三枝信子(産総研)他5名 カナダ Jack Pine 幼齢林における CO<sub>2</sub> 濃度及び同位体比観測
- P128 濱生稔・前田高尚(産総研)他9名 熱帯林生態系における炭素循環のパラメタリゼーション (その2)
- P129 大久保沙貴・和田晃(気象大)他5名 南島島における大気中 CO<sub>2</sub> 濃度の顕著な低下現象について
- P130 岩瀬弘信(FRCGC) モンテカルロ法を用いた三次元放射伝達モデルの開発と性能評価 (III)
- P131 中田淳子・木田秀次(京大院理)他1名 長期間の森林構造動態が微気候形成に及ぼす影響に関する研究

## 大会第1日 [5月15日] 11:15 ~ 12:15 ポスターセッション

(~~~~は講演者を表す。)

## PB会場

- P151 山本勝(和歌山大教育)・高橋正明(東大気候システム) CCSR/NIES AGCMの放射コードを用いた金星中層大気モデルの開発
- P152 久保田孝・川村誠治(NICT)他 10名 大気光波状構造キャンペーン 2004(WAVE2004)において大気光イメージャ・ナトリウムライダー・ロケットチャプ同時観測によって得られた大気重力波の描像
- P153 福原哲哉(総研大)・今村剛(JAXA) MGS搭載TESで観測された火星南半球夏極近傍の波動
- P154 中川晋太郎・楠田博美(東海大教養)他 1名 惑星β効果を持つ順圧回転水槽実験～チベット高原の力学～
- P155 板野裕久・小寺勲(防衛大地球) 防衛大学校特殊回転風洞における流量測定
- P156 橋本篤・吉野純(岐阜大理工)他 3名 側面境界条件の高精度化が風況計算精度に与える影響
- P157 嶋田進・吉野純(岐阜大理工)他 2名 高解像度風況計算の効率化・高精度化に関する検討
- P158 遠藤智史・篠田太郎(名大地球水循環)他 8名 ウィンドプロファイラにより観測された中国淮河流域における大気境界層内の鉛直循環
- P159 吉田真純(日本気象協会)・森征洋(香川大院教育) 女木島における局地的強風「オトシ」の数値シミュレーション
- P160 渡辺明(福島大理工) 福島県北東部の強風出現機構
- P161 八木晃司・安中さやか(東北大院理)他 2名 日本の冬季・夏季気温場の卓越モードと大気大循環場および海面水温場との関係
- P162 原田やよい・遠藤洋和(気象庁気候情報)他 1名 2004年7月に猛暑をもたらした高気圧の成因
- P163 宮崎保彦(気象衛星センター) 螺旋状対流雲域の構造
- P164 平山勉介・遊馬芳雄(北大院理) 2003年台風第10号の温帯低気圧への変遷過程－北海道日高地方の豪雨の要因－
- P165 佐藤友徳(JST)・長谷川明(筑波大環境科学)他 2名 モンゴル東部における雲の出現パターンと地形起伏の関係
- P166 遊馬芳雄(北大院理) ノルウェー・ベアーアイランドでのレーザー反射強度特性
- P167 蝶野洋平・播磨屋敏生(北大院理)他 4名 2波長レーザーを用いた降水量鉛直プロファイルのリトリバル (2) -リトリバル-
- P168 鈴木賀美・道本光一郎(防衛庁)他 3名 スプライトとその原因となった冬季雷放電の観測
- P169 K. Krishna Reddy・Baio Geng (IORGC) 他 11名 Application of wind profilers:Diurnal and seasonal variation of precipitating cloud systems over Asia and Western Tropical Pacific Ocean
- P170 下瀬健二・川野哲也(九大院理) 2004年6月27日に佐賀で発生した竜巻の数値シミュレーション
- P171 和田豊・原昌弘(気象大) 梅雨前線上的の小低気圧前面で発達したレインバンドの数値実験
- P172 森真理子(高層気象台)・中里真久(気象研)他 1名 2004年9月29日尾鷲付近で発生した集中豪雨の事例解析 -降水システムの発生から形成期にかけて-
- P173 西垣詠人(気象庁予報) レーダー三次元情報のフラクタル解析による短時間地上雨量予想-気象学の数値モデルではない、気象学および大気電気学の概念モデルに基づくコアの動態解析-
- P174 高坂裕貴・二階堂義信(気象大) 温位座標系を用いた数値予報モデルの開発と実験
- P175 斉藤和雄(気象研)・経田正幸(気象庁数値予報)他 1名 平成16年新潟・福井豪雨のメソアンサンプル予報実験 (序報)
- P176 田中智寛・杉田孝史(環境研)他 3名 ILAS-IIにおける新しい接線高度決定法について
- P177 北村彩子・泉岳樹(都立大理)他 1名 空間分布を考慮した大気補正による衛星データからの地表面温度の推定
- P178 麴地信行(JAXA)・日暮明子(環境研)他 3名 ADEOS-II GLI エアロゾルプロダクトの検証
- P179 石井昌憲・水谷耕平(NICT)他 8名 航空機搭載コヒーレントドップラーライダー観測②
- P180 関澤信也(NICT) MSPC-WPRによる大気の高密度3次元観測システムの検討
- P181 古本淳一(京大生存研)・瀬古弘(気象研)他 3名 大気レーザーを用いた大気水蒸気プロファイル推定への変分法の導入 その3
- P182 松沼政明・友利方彦(JR 東日本)他 2名 高密度降雨情報表示システムの試作及び精度検証について
- P183 井上豊志郎・釜塚弘隆(気象研) 下層雲出現時のラジオゾンデによる気象要素の特徴
- P184 瀬戸内博規・遠峰菊郎(防衛大地球海洋)他 3名 熱気球による気温逆転層付近の観測と解析
- P185 納只恭明(防災科研)・和泉薫(新潟大)他 2名 続雪形って知ってますか? -白山の雪形「猿たばこ」-
- P186 平松和彦(北海道旭川西高) 室内でおこなう気象実験 (II) -北京・索尼探夢の科学イベント-

## 大会第2日 [5月16日] 09:30 ~ 11:30 一般口頭発表

(~~~~は講演者を表す)

## A 会場

## 気候システムII

座長：野田 彰(気象研)

- A201 横員司・野田彰(気象研)他 37名 20km 全球大気モデルによる地球温暖化実験結果の概要
- A202 横員司・吉村裕正(気象研)他 3名 全球大気モデルによる梅雨再現性の水平分解能依存性
- A203 吉村純(気象研)・大内和良(AESTO/気象研)他 4名 20km 格子全球大気モデルによる温暖化実験における台風 -発生頻度と最大強度の変化-
- A204 大内和良(AESTO/気象研)・吉村純(気象研)他 4名 20km 格子全球大気モデルによる温暖化実験における台風 -最大風速や持続日数の変化-
- A205 内山貴雄(気象研)・水田亮(AESTO/気象研) 20km 格子全球モデルによる極端な気温現象の地球温暖化による変化
- A206 上口賢治(気象研) 超高解像度全球モデルを用いた、温暖化時の極端な降水現象に関する予測
- A207 荒川理・鬼頭昭雄(気象研) 20km メッシュ全球モデルでの熱帯降水量日変化とその検証
- A208 鬼頭昭雄・荒川理(気象研) 20km メッシュ全球モデルでの熱帯降水量日変化の温暖化による変動
- A209 水田亮(AESTO/気象研)・吉村裕正(気象研)他 2名 20km 格子全球大気気候モデルにおける中緯度対流圏界面物質交換
- A210 橋本明弘(AESTO)・村上正隆(気象研)他 9名 水平解像度 20km 全球大気モデルと 5km 非静力学領域気候モデルを用いた現在気候実験の雲物理量の比較

## B 会場

## 物質循環II

座長：澤 庸介(気象研)

- B201 漢康介・松枝秀和(気象研)他 4名 富士山山頂で冬季に観測された顕著なCO濃度上昇
- B202 江口菜穂・塩谷雅人(京大生存研) 夏季アジアモンスーン領域における対流圏界面付近の水蒸気変動
- B203 風岡亮・木田秀次(京大院理) 日本付近に到達する空気塊輸送経路の確率分布 (2)
- B204 鈴木香寿恵(総研大)・山内恭(極地研/総研大)他 1名 南極域における対流圏大気輸送の季節変化
- 座長：竹見哲也(東工大院総合理工)
- B205 山中のり子・久慈誠(奈良女子大)他 4名 GLI センサの紫外波長観測データを用いた黄砂の推定
- B206 竹見哲也(東工大院総合理工)・安井元昭(NICT)他 2名 乾燥地における境界層対流によるダストの輸送過程
- B207 菅松展亮・甲斐憲次(名大)他 7名 タクラマカン砂漠における接地逆転層の崩壊に伴った同時多発的なダスト発生ライダーと数値モデルを用いた研究一
- B208 後藤誠・甲斐憲次(名大環境)他 6名 タクラマカン砂漠におけるダスト層の鉛直分布と風系に関する研究
- B209 大和田道雄(愛知教育大)・梅田佳子(愛知教育大院) 日本列島における黄砂飛来のメカニズムと気圧場との関係
- B210 芝定孝・平田雄志(大阪大院)他 1名 ナノサイズ厚の水溶性物質が表面に沈着した非水溶性ダストの雲粒凝結特性

## 大会第2日 [5月16日] 09:30 ~ 11:30 一般口頭発表

(~~~~は講演者を表す, [OHP]はOHP使用予定講演を示す。)

### C会場

#### 熱帯大気II

座長：森 一正(気象研)

- C201 森田正光(ウェザーマップ)・渡辺正太郎(慶応義塾大) ドボラック法による台風観測の問題点について～台風は本当に昔より弱くなったのか?～  
[OHP]
- C202 吉川敏文・板野稔久(防衛大)他 2名 台風 0314号の宮古島通過時の構造について
- C203 横木研・石川裕彦(京大防災研) 台風発生過程の数値解析
- C204 山崎正紀(FRCGC) 格子間隔 20km モデルにおける台風の発生過程
- C205 森一正(気象研) 台風発生過程における MCS
- C206 三浦裕亮・富田浩文(FRCGC)他 3名 全球雲解像モデルによる水惑星実験の日周期
- C207 松浦弘和・塩谷雅人(京大生存研)他 4名 みらいライダー観測に見られる熱帯対流圏界面領域の絹雲変動
- C208 安永数明(AESTO)・岡本創(東北大理)他 6名 熱帯海洋上において海洋地球研究船「みらい」で観測された中層に雲底を持つ雲の発生状況と成因

#### 気象教育

座長：森 一正(気象研)

- C209 坪田幸政(慶應義塾高)・吉田優(日本気象協会) 作画ソフトを使った演習教材の開発とその授業での利用

### D会場

#### 相互作用

座長：松島 大(東北大院理)

- D201 松浦陽介・松島大(東北大院理) モンゴル国の半乾燥域における展葉開始期と気象条件の関係
- D202 馬淵和雄(気象研)・木田秀次(京大) 陸面植生モデル BAIM Ver.2 (BAIM2) とそれを組み込んだ気候モデルによる数値実験 (II)
- D203 山田哲二(米国 YSA 社) 建造物の壁内温度の日変化が都市での汚染物質の輸送・拡散に与える影響に関する数値シミュレーション
- D204 河合徹・金賀将彦(東工大理工)他 1名 3次元簡易都市キャノピーモデルの構築と屋外縮小模型都市を用いた実験
- D205 稲垣真至・神田学(東工大) LESによるエネルギーとCO<sub>2</sub>に関する点計測インバランスの評価
- D206 田中亮・新野宏(東大海洋研)他 1名 Dust Devil の発生環境と構造に関する数値的研究

座長：久保田尚之(IORGC)

- D207 木原真人・植田洋匡(京大防災研)他 1名 風波上の気流の数値計算
- D208 山内明子(東洋大院生命科学)・小林裕司(伊豆潜水調査センター)他 3名 季節境界推定法における判定基準の仮設定－伊豆諸島周辺を例として－
- D209 山内明子(東洋大院生命科学)・小林裕司(伊豆潜水調査センター)他 3名 梅雨期における深度別海水温変動の特徴について－LFDによる夏の暑冷予測法－
- D210 佐藤尚毅(IORGC) 季節内振動に伴うじょう乱が暖水域の海洋表層に与える影響

## 大会第2日〔5月16日〕11:30～12:30 ポスターセッション

( )は講演者を表す。

## PA会場

- P201 清木亜矢子・高薮縁(東大気候システム) MJO/ENSOの位相に対する擾乱の運動エネルギー収支～鉛直構造と西風バースト発生との関係～
- P202 山口隆子・安藤晴夫(都環科研)他5名 2002年8月～2004年10月の東京都区部における気温分布の特徴について
- P203 市野美夏・秋山祐佳里(都環科研)他5名 METROSで捉えた東京都心部における風系
- P204 横山仁・安藤晴夫(都環科研)他5名 2004年夏季の東京都区部におけるヒートアイランドの実態について
- P205 安藤晴夫・横山仁(都環科研)他5名 2004年8月10日に都区部で観測された局地的降雨時の気象状況について
- P206 秋山祐佳里・市野美夏(都環科研)他5名 東京都区部における2004年12月5日の異常昇温
- P207 川邊智二・大橋唯太(岡山理科大総合情報) 岡山市におけるビル街と住宅街の気象要素の違いについて
- P208 東海林孝幸・近藤裕昭(産総研)他6名 異なる街区内における多点気温観測および都市キャノピーモデルによる評価 - 2004年夏季観測を例にして -
- P209 小田慎子・森脇亮(東工大理工)他1名 東京湾および都市における冬季のフラックス比較-熱収支・CO<sub>2</sub>フラックスの相違-
- P210 張寅生・大畑哲夫(IORGC)他1名 Seasonal and inter-annual variation of snow cover surface sublimation in southern Siberia and north-eastern Mongolia
- P211 上原恵(千葉大理工)・鈴木力英(FRCGC/千葉大 CEReS)他1名 冬の季節風吹き出し時におけるGPS データを使った水蒸気の動態の解析
- P212 永井信(名大院環境)・市井和仁(San Jose State Univ./NASA AMES)他1名 熱帯雨林における植生と気候システムとの動的な関連
- P213 村崎万代・佐々木秀孝(気象研)他7名 大気海洋結合地域モデルを用いた温暖化予測実験
- P214 仲江川敏之(気象研)・金光正郎(スクリップス海洋研究所) アンサンブル長期積分実験による潜在的季節予報精度の長期変動
- P215 Xiaomei Pang・中村洋一(日本工業大工)他1名 静止気象衛星画像を用いたアジア・オセアニア地域における降水量の検討
- P216 行本誠史・小寺邦彦(気象研) 地球温暖化に伴う北極振動に似た構造の成因-成層圏と対流圏の寄与-
- P217 宮崎千尋・安成哲三(名大地球水循環) アジアにおける冬季地上気温の経年変動とその要因
- P218 赤坂郁美(都立大理)・森島清(江戸川大)他1名 フィリピンにおける雨季入り・雨季明けの経年的特徴
- P219 岩崎博之・新居知巳(群馬大教育) モンゴルにおける「雨期の中休み」期間の大規模循環場の特徴
- P220 金森大成(名大院環境)・蔵治光一郎(東大)他1名 ボルネオ島西部における降雨活動の日変化特性
- P221 古林絵里子・内山明博(気象研)他2名 最尤法に基づいた inversion によるスカイラジオメーターの解析プログラム
- P222 西川将典・檜山哲哉(名大地球水循環)他3名 中国・黄土高原における大気境界層観測-大気境界層発達過程の日変化及び季節変化特性-
- P223 増田佳孝(千葉大理工)・近藤昭彦(千葉大 CEReS) 東アジアにおける黄砂の発生頻度と土地被覆条件および気象条件の関係
- P224 松見豊・高橋けんし(名大 STE 研)他3名 日本に飛来した黄砂エアロゾルのレーザーイオン化個別粒子質量分析装置によるリアルタイム分析
- P225 田中泰史・黒崎泰典(気象研)他7名 北アフリカ・中東から日本への鉱物ダストの輸送の可能性
- P226 川本未来・張代洲(熊本県立大環境共生)他1名 熊本県天草で観測された SO<sub>2</sub>の排出地域の推定
- P227 加藤知道・伊藤昭彦(FRCGC) 気候-陸域炭素循環結合モデルの開発
- P228 三枝信子・山本晋(産総研)他4名 冷温帯落葉広葉樹林における炭素吸収速度の長期観測とその検証
- P229 森本真司(極地研)・青木周司(東北大理院)他2名 北極域における大気中メタンの炭素同位体比の変動
- P230 深堀正志・藤枝鋼(気象研)他2名 室温下における CO<sub>2</sub> 15 $\mu$ m 帯の吸収線パラメータの測定
- P231 泉玉裕二・栗田孝(北大低温研)他3名 森林内の積雪水量と融雪量分布

## 大会第2日 [5月16日] 11:30 ~ 12:30 ポスターセッション

(~~~~は講演者を表す。)

## PB会場

- P251 冨川喜弘(極地研)・吉識宗佳(環境研)他2名 南極昭和基地上空で観測された下部成層圏短周期擾乱
- P252 水津玲・宮原三郎(九大理)他1名 MLT 領域潮汐波の変動とプラネタリー波の変動について
- P253 鈴木良・塩川和夫(名大STE研)他4名 中間圏の大気光画像中に現れた湾曲波面を持つ大気重力波の構造
- P254 松林健吾・金久博忠(気象大) ジェット気流上の強制波動
- P255 有井卓・高橋義宏(東海大教養)他1名 鉛直設置型閉ループ内熱対流実験における主流の反転
- P256 浅沼順(筑波大陸域環境) 直交ウェーブレット変換から見た温度と水蒸気量の相似性
- P257 真野佑輝・宮崎真希(東京理科大)他4名 関東内陸におけるガス状・粒子状物質の測定方法の比較検討
- P258 宮崎真卓・真野佑輝(東京理科大)他4名 夏季の関東内陸部におけるPM2.5の水溶性無機成分と質量濃度の関係
- P259 角鏡剛(富山大院理工)・川村隆一(富山大理) GPS可降水量からみた東北地方におけるヤマセの実態
- P260 佐々木華織(東北農業研究センター) 山形県庄内地方において観測された台風0415号接近に伴うフェーンの特徴
- P261 竹川稔彦・甲斐憲次(名大院環境)他1名 夏季晴天日の濃尾平野における局地循環の鉛直構造に関する研究
- P262 早崎将光・菅田誠治(環境研) 黄砂の長距離輸送時における寒冷前線の時間発展 - 2002年3月の事例解析 -
- P263 星野俊介・中澤哲夫(気象研)他1名 マイクロ波センサーのデータを用いた台風の強度推定法に関する研究(第4報)
- P264 櫻井南海子(神戸大自然)・村田文絵(地球研)他 Sumatora 島西部で観測された移動する雲システムの降水域の特徴
- P265 庭野匡思(富山地方気象台)・榊原均(気象研) 2003年1月27日から28日にかけて日本海で急発達した低気圧内の3次元構造
- P266 高橋暢宏(NICT)・阿波加純(北海道東海大) 融解層の衛星搭載マイクロ波放射輝度温度へ与える影響の評価(その2)
- P267 奥田智洋・小林文明(防衛大)他1名 GOES-9を用いた北日本太平洋岸における夜間下層雲の動態
- P268 鈴木賢士・重永悠介(山口大)他1名 熱帯西太平洋上に発達する降水雲の雲物理観測
- P269 中村佳敏・森本健志(大阪大院)他3名 ウィンドプロファイラレーダとVHF波帯広帯域デジタル干渉計による雷活動時の大気の流れに関する事例解析(1)
- P270 山根悠介(京大院理)・林泰一(京大防災研) 南アジアにおけるトルネードパラメータの時空間分布の特徴について
- P271 米田宗平・麻生正(気象大)他1名 台風周辺からの暖湿流による前線付近での豪雨の発生要因と構造
- P272 田上浩孝・新野宏(東大海洋研) 理想化した系における梅雨前線上のメソ $\alpha$ 低気圧の数値実験
- P273 大蔵英(富士通FIP)・渡部文雄(気象庁気候情報)他4名 適切な確率予報を行うためのアンサンブル1か月数値予報の補正
- P274 深尾一仁・田中寛(岐阜大工)他3名 メソ気象モデルの高解像度化が予測精度に与える影響
- P275 瀬古弘・國井勝(気象研)他2名 ドップラーレーダ動径風やGPS水蒸気量を用いた豪雨や短時間強雨をもたらした降水系の同化実験(その1)
- P276 瀬戸心太・佐藤晋介(NICT)他2名 TRMM/TMI標準アルゴリズムによる陸上の降雨強度推定値の偏差
- P277 小西雅也・三田昭吉(気象大) 静止気象衛星データを用いた地表面温度の算出
- P278 小司慎教(気象研)・青山雄一(京大生存研)他1名 GPSダウンスッキング掩蔽法:一次勾配を考慮した屈折率プロファイルの補正
- P279 西澤賢明・岡本創(東北大院理)他4名 全球3次元エアロゾル輸送モデルと2波長偏光ライダーデータから導出されたエアロゾル鉛直分布の比較
- P280 Nanda B. Adhikari・瀬戸心太(NICT)他4名 On the performance of rain from GPM dual-frequency precipitation radar measurements: An assessment with numerical simulation
- P281 高橋仁(名大院環境)・中村健治(名大地球水循環)他3名 沖縄偏波ドップラ降雨レーダ(COBRA)による晴天大気エコーの観測
- P282 島崎景子・中島健介(九大理)他2名 飛行機に伴う気圧変動の観測
- P283 高田真樹・遠藤菊郎(防衛大地球海洋)他2名 熱気球により観測された気温逆転層付近の風速、比湿の変動
- P284 伊田季寧・北和之(茨城大)他3名 航空機搭載型紫外分光計 Airborne-OPUSによるオゾンカラム量導出の試み
- P285 笹岡雅宏(気象研) モーメント推定手法の改善:境界層レーダー観測の誤差評価のシミュレーション
- P286 高橋康哉(北海道教育大教育実践総合センター)・坪田幸政(慶應義塾高) 中学生向け科学体験学習プログラム「気象情報を読む」の開発と内容妥当性の検証

## 大会第2日〔5月16日〕13:30～17:00 専門分科会

(~~~~は講演者を表す)

## A会場

## 「日本における再解析：～作る立場から、利用する立場から～」

趣旨説明：山崎信雄(気象研)

座長：山崎信雄(気象研)

- \*\*\*A251 大野木和敏(気象庁気候情報)・JRA-25 実施グループ JRA-25 長期再解析プロジェクト  
 \*\*A252 坂本雅巳(気象庁気候情報) 長期再解析プロジェクト：JRA-25 への TOVS 観測の適用

座長：増田耕一(FRCGC)

- \*A253 小出寛(気象庁気候情報)・初鹿宏壮(電中研)他 3名 JRA-25 長期再解析プロジェクト JRA-25 再解析のアマゾン域の乾燥化について  
 \*A254 谷田貝要紀代(地球研) 大気水収支法と再解析モデルにより計算される蒸発散量－黄河流域の比較例－  
 \*\*A255 久保田雅久・宮田裕之(東海大海洋) 全球海上潜熱フラックスデータの比較  
 \*\*A256 芳村圭・沖大幹(東大生産研)他 1名 降水安定同位体を用いた JRA-25 大気水循環場の評価  
 \*A257 高橋清利・山崎信雄(気象研)他 2名 JRA-25 データで見るモンスーン季節進行と大気加熱  
 \*\*A258 植村恵子・川村隆二(富山大理)他 1名 JRA-25 再解析を用いたアジア・西太平洋夏季モンスーン循環場の解析  
 \*\*A259 渡来靖(筑波大陸域環境)・田中博(筑波大計算科学) JRA-25, ERA-40, NCEP/NCAR 再解析データにおける全球エネルギーサイクルの比較 (その2)  
 \*A260 井上知栄・松本淳(東大院理) ユーラシア東部における再解析データの気圧・高度場の長期比較  
 \*A261 筒井純二・初鹿宏壮(電中研)他 2名 JRA-25 長期再解析データにおける月平均地上気温の変動とトレンド

休憩 (10分)

座長：望月 崇(FRCGC)

- \*\*A262 杉浦望実・石田信浩(FRCGC)他 11名 四次元変分法を用いた大気海洋陸域結合データ同化システム  
 \*A263 望月崇・杉浦望実(FRCGC)他 4名 四次元変分法を用いた大気海洋陸域結合データ同化システムによるアンサンブル気候値同化実験  
 \*A264 増田周平(FRCGC)・淡路敏之(FRCGC/京大理)他 6名 四次元変分法海洋データ同化システムを用いた 1990年代再解析実験  
 \*A265 五十嵐弘道・石田信浩(FRCGC)他 6名 アジョイントモデルを用いた水蒸気の逆追跡  
 \*A266 石田信浩・五十嵐弘道(FRCGC)他 6名 アジョイントモデルを用いた結合感度解析

各講演の持ち時間：\*10分，\*\*14分，\*\*\*20分

## 大会第2日 [5月16日] 13:30 ~ 17:00 専門分科会

(~~~~は講演者を表す)

### B会場

#### 「メソ対流系」研究の到達点とこれから」

座長：吉崎正憲(気象研)

- \*B251 吉崎正憲・加藤輝之(気象研)他2名 「メソ対流系」研究の到達点とこれから—全体報告
- \*\*B252 村上正隆・折笠成宏(気象研)他4名 冬季日本海上に出現した様々な雲システムの航空機観測
- \*\*B253 猪上淳(IORGC) 冬季日本海における大陸沿岸付近での大気海洋相互作用
- \*\*B254 太東忠保・坪木和久(名大地球水循環) 海岸部に沿って長時間停滞した2本の降雪バンドの構造と維持過程
- \*\*B255 永戸久喜・林修吾(気象研)他2名 冬季メソ対流系の構造とメカニズム解明における特別観測と雲解像数値実験の重要性

#### 休憩

- \*\*B256 梅本泰子・手柴充博(京大生存研)他3名 X-BAIU 観測が明らかにした甌島ラインの発生・発達メカニズム
- \*\*B257 茂木耕作(京大防災研)・篠田太郎(名大地球水循環)他5名 航空機 G2 を用いた水蒸気前線の直接観測と今後の降水系観測に対する指針
- \*\*B258 加藤輝之(気象研) 梅雨前線帯での豪雨の発生・維持機構—梅雨ジェットの定義からメソ対流系内での積乱雲の動き—

#### 総合討論

各講演の持ち時間：\*10分、\*\*25分

## 大会第2日〔5月16日〕13:30～17:00 専門分科会

(~~~~は講演者を表す)

### C会場

#### 「顕著現象の予測可能性」

趣旨説明：大淵 済(地球シミュレータ)

座長：大淵 済(地球シミュレータ)

\*\*C251 向川均・久保田拓志(京大防災研)他3名 予測可能性の変動に関する理論と実際

座長：中澤哲夫(気象研)

\*C252 山口宗彦・経田正幸(気象庁数値予報) 気象庁特異ベクトル法による顕著現象予測に影響を及ぼす摂動の計算

\*C253 具允泳(釜慶大環境大気)・経田正幸(気象庁数値予報) 気象庁週間アンサンブル予報による顕著現象予測可能性

\*C254 榎本剛・大淵済(地球シミュレータ) 2004年7月20日に関東地方で発生した猛暑のシミュレーション

座長：向川 均(京大防災研)

\*C255 竹見哲也(東工大院総合理工)他 異なる静的安定度の環境におけるメソ対流系の水蒸気プロファイルに対するインパクト

\*C256 小司禎教・國井勝(気象研)他3名 2004年6月30日、静岡で発生した豪雨のGPSデータ同化・予測実験

\*C257 青梨和正・永戸久喜(気象研) 衛星搭載マイクロ波放射計データの非静力雲解像モデルへの同化法の開発(その2)

総合討論「日本における予測可能性研究の今後の展開」

司会：大淵 済(地球シミュレータ)

各講演の持ち時間：\*20分，\*\*30分

## 大会第2日 [5月16日] 13:30 ~ 17:00 専門分科会

(~~~~は講演者を表す)

### D会場

#### 「複雑多様な陸面諸過程の全体像の把握はどこまで可能か？ その方策を模索する。」

**趣旨説明：**馬淵和雄(気象研)

**座長：**桑形恒男(農環研)

D251 杉田倫明(筑波大院生命環境) 地表面フラックス：点での観測，線・面の推定値

D252 山本晋・三枝信子(産総研)他 1名 プロットスケールの炭素収支観測を如何にして，衛星リモセンデータ面的解析，陸域モデルによる炭素収支マッピングに結びつけるか？

D253 末田達彦(愛媛大農)・日下部朝子(早稲田大人間科学)他 2名 航空レーザー測距法による葉面積指数の広域測定

**休憩 (10分)**

**座長：**渡辺 力(森林総研)

D254 西田顕郎(筑波大農林工) 衛星リモートセンシングによる陸域生態情報の定期的な観測における問題

D255 伊藤昭彦(IORGC) 陸域物質循環の不確定性とモデリング

D256 小泉博(岐阜大流域圏科学) 環境研究のための新たな学問分野、「衛星生態学」の創生

**座長：**馬淵和雄(気象研)

**総合討論 (30分)**

**各講演の持ち時間：**25分

## 大会第3日 [5月17日] 09:30 ~ 11:30 一般口頭発表

(~~~~は講演者を表す. [書画カメラ]は書画カメラ使用予定講演を示す.)

## A 会場

## 気候システムIII

座長：佐藤尚毅 (IORGC)

- A301 田中博・松枝未遠(筑波大) 地球大気の特異固有解として得られる北極振動
- A302 黒田友二(気象研)他 2名 南半球環状モードへのオゾンのインパクト-大気=化学結合モデルの解析-
- A303 小寺邦彦(気象研) 太陽活動の影響はどこに見られるのか?
- A304 中村哲(東海大)・立花義裕(東海大/FRCGC)他 2名 AO は ENSO を駆動するか? - AO と熱帯太平洋下層風-
- A305 古関俊也(北大院環境科学)・渡部雅浩(北大院地球環境)他 1名 山岳強制下における中緯度大気海洋結合系の気候形成
- A306 稲津将・木本昌秀(東大気候システム) 高解像度 CCSR/NIES/FRCGC GCM における大気海洋結合効果
- A307 佐藤尚毅 (IORGC)・高橋正明(東大気候システム/FRCGC) 南鳥島収束帯の形成と上層寒冷低気圧との関係
- A308 高橋洋(名大院環境)・安成哲三(名大地球水循環) インドシナ半島における気候学的な降水量減少とそれのモンスーン循環の季節進行への影響
- A309 V.S. Prasad・林泰一(京大防災研) Active week and break phases of the Indian summer monsoon
- A310 栗田真幸 (IORGC)・CEOP/Tibet 観測グループ 夏のチベット高原にもたらされる水蒸気輸送とその起源
- A311 神代剛・塩谷雅人(京大生存研)他 1名 亜熱帯海洋上における下層雲量の季節変動に対するエアロゾルの影響

## B 会場

## 物質循環III

座長：直江寛明(気象研)

- B301 岡田菊夫・池上三和子(気象研)他 5名 対流圏中部におけるエアロゾル粒子の組成の緯度分布 - PACE-3 航空機観測 [書画カメラ]
- B302 直江寛明・岡田菊夫(気象研)他 4名 大気煤粒子の混合状態と光吸収特性について [書画カメラ]
- B303 兼保真樹(産総研)・五十嵐康人(気象研)他 4名 富士山頂における 2003 年シベリア森林火災煙の光学・化学特性の測定
- B304 鶴田治雄(東大気候システム)・矢吹正教(極地研)他 2名 APEX 総合観測期間中に奄美大島で測定した春季の大気エアロゾル(3) 粒径別化学組成と光学測定から求めた単一散乱アルベドの比較
- B305 Gerry Bagtasa・竹内延夫(千葉大 CEReS)他 3名 Aerosol MEE values derived from continuous operating lidar observation
- B306 梶野瑞王・植田洋匡(京大防災研)他 1名 三宅島起源硫酸エアロゾルにより気相に追い出された硝酸・塩酸による間接的環境酸性化
- B307 竹川暢之・宮川拓真(東大先端研)他 4名 東京における 1次および 2次有機エアロゾルの濃度変動
- B308 森野悠・近藤豊(東大先端研)他 7名 都市大気中における硝酸のガス-エアロゾル分配比の評価-鉛直混合の影響
- B309 太和田道雄(愛知教育大)・櫻井麻理(名古屋市) 大気環境濃度に及ぼす局地風の影響
- B310 庭野将徳(京大院理)・古谷望(松下電器産業)他 2名 SAGE II データを用いた成層圏エアロゾルの解析 ~季節変動及び準 2年周期振動~

## 大会第3日〔5月17日〕09:30～11:30 一般口頭発表

(~~~~は講演者を表す)

## C 会場

## 降水システムI

座長：加藤内蔵進(岡山大教育)

- C301 城岡竜一・米山邦夫(IORGC)他 11名 パラオ周辺域におけるデュアルドップラーレーダー観測の概要
- C302 牛山朋来・城岡竜一(FRCGC)他 11名 ドップラーレーダーで観測されたパラオ周辺域の層状性降水システムについて
- C303 橋研一・折笠成宏(気象研)他 7名 ミリ波レーダーで観測した山岳性降雪雲の平均像
- C304 大野裕一・堀江宏昭(NICT)他 1名 雲レーダで観測された非降水水粒子による境界層エコーについて
- C305 鈴木菊男・小林文明(防衛大地球)他 1名 ガストフロントの微細構造(2)
- C306 山田芳則・赤枝健治(気象庁) 関東地方を通過した寒冷前線に伴う降水雲のデュアルドップラーレーダー解析
- C307 浅口裕茂・福原正明(徳島地方気象台) 2003年7月18, 19日徳島県南部で発生した集中豪雨についてー局地前線の停滞・強化メカニズムー
- C308 用具敏郎(鹿児島地方気象台) 2004年11月11日、鹿児島県種子島南部で発生した集中豪雨の事例解析
- C309 合田泰弘(岡山大理)・加藤内蔵進(岡山大教育)他 1名 西日本の梅雨前線と線状降水帯の複合系のふるまいについて(2001年6月19日頃の事例解析)
- C310 米田次郎・石川裕彦(京大防災研) 梅雨前線北西側の中層乾燥空気が豪雨に与える影響
- C311 清水慎吾(名大地球水循環)・上田博(名大地球水循環/IORGC)他 5名 湿潤環境場における対流セルの寿命と蒸発冷却による浮力生成量の関係ー2001年長江下流域梅雨期集中観測で観測された降水バンドー
- C312 池田祥一郎・加藤内蔵進(岡山大教育) 1998年の中国大陸上の梅雨前線の南側と北側双方の領域における水蒸気の維持過程と広域陸面について

## D 会場

## 大気力学I

座長：森 厚(学芸大)

- D301 石田晋二・岩山隆寛(神戸大院自然) 非線形項によって補正されたエクマンバンピングに関する理論的研究
- D302 森厚(学芸大) 回転系の2次元水平対流に現れる境界層
- D303 相本秀則(FRCGC)・Tivon Jacobson(東大院理)他 1名 層厚重みづけ平均 NS 方程式のエネルギーサイクルー低解像度海洋モデルにおける傾圧不安定渦のパラメータ化にむけてー
- D304 前島康光(九大院総理工)・伊賀啓太(東大海洋研) 帯状収束雲に伴う前線の特徴と擾乱の発達
- D305 和方吉信(九大応力研) 2次元熱対流による平均流励起ーThompson メカニズムに関連してー
- D306 眞田浩文・三浦裕亮(FRCGC)他 3名 全球雲解像モデル NICAM による水惑星実験(2)
- D307 山中大(神戸大自然/IORGC) 水平対流論の再考(局地循環から子午循環まで)
- D308 上村和也・松島和宏(東海大教養)他 2名 惑星β効果を持つ傾圧回転水槽実験ー半球規模対流圏の再現を目指してー
- D309 山本勝(和歌山大教育)・高橋正明(東大気候システム) 金星大気大循環における地形の影響
- D310 川崎泰宏(東大理)・今村剛(JAXA)他 1名 MGS/TES の赤外輝度データによる火星大気波数スペクトル
- D311 山下陽介(東大気候システム)・高橋正明(東大気候システム/FRCGC) 火星大気北極振動

## 大会第3日〔5月17日〕11:30～12:30 ポスターセッション

(〰は講演者を表す.)

## PA会場

- P301 谷尾元聡・津田敏隆(京大生存研) 熱帯における年輪気候学に関する基礎技術開発
- P302 筆保弘徳・飯塚聡(防災科研)他2名 東南・南アジアに降水をもたらす南シナ海起源の擾乱
- P303 久保田尚之・城岡竜一(IORGC)他3名 西進波に影響されたニューギニア島起源の日変化する対流活動(2)
- P304 梅谷和弘(京大院人間環境)・森永修司(京大理)他1名 京都都市気象観測 多点観測用気象測器の開発
- P305 飯澤功・梅谷和弘(京大院人間環境)他5名 京都都市気象観測 気温の水平高密度観測
- P306 小野耕作(京大院人間環境)・矢島新(京大院地球環境)他2名 京都都市気象観測 気温の鉛直分布連続観測
- P307 伊藤文・酒井敏(京大院人間環境)他2名 京都都市気象観測 都市部と郊外の比較
- P308 小川弘子・菅原広史(防衛大)他6名 建物群における熱フラックスと気流場の実測
- P309 金賀将彦・高島亜紗(東工大理工)他2名 屋外都市準実スケールモデル実験の紹介とその地表面特性の基礎的検討
- P310 森脇亮・新田晴美(東工大)他1名 低層住宅街におけるCO<sub>2</sub>、H<sub>2</sub>O、温位の鉛直分布特性
- P311 山本晴彦(山口大農)・張継権(東北師範大)他1名 旧満州気象データベースの構築と満蒙開拓団の送出母村と移民地における農業気象環境の比較
- P312 田口正和(京大生存研) “日本雲アトラス”の紹介
- P313 吉田聡・榎本剛(地球シミュレータ)他2名 大気大循環モデルの大規模凝結過程の改良
- P314 高藪出・佐々木秀孝(気象研)他3名 地域気候モデルによるチベット高原の積雪過程のシミュレーション実験
- P315 関隆則(日本気象予報士会)・上條賢一(東洋大院生命科学) 500hPa等圧面高度のLFD解析-2003年の冷夏時の特徴について-
- P316 荒井美紀・木本昌秀(東大気候システム)他1名 春季ユーラシア域の地表面気温変動の要因と夏季の気圧場への影響について
- P317 横山直美・田中博(筑波大) 2003年日本の冷夏の解析と夏季の北極振動の数値実験
- P318 小守信正・吉田聡(地球シミュレータ)他1名 CFESによる高解像度大気海洋結合シミュレーション
- P319 梶川義孝・安成哲三(名大地球水循環) 南シナ海上における30-70日周期変動の長期変動
- P320 石崎紀子・植田宏昭(筑波大) ERA40を用いたインドシナ半島における非断熱加熱の減少トレンド
- P321 出生真・柴田清孝(気象研)他1名 気象研究所化学輸送モデルで再現された極渦内オゾン場の精度向上について
- P322 遠藤伸彦(FRCGC) チベット高原の大気境界層と地上気象要素の日変化-植生と雲の影響-
- P323 山本亨(国土環境)・吉野正敏(国土環境/国連大)他2名 東アジアにおけるダストイベント発生と降水との関係
- P324 石水尊久・眞木貴史(気象庁環境気象) 気象庁黄砂予測モデル(MASINGAR)の陸面テーブルの更新について
- P325 巽崎泰典・三上正男(気象研)他4名 東アジアにおけるNDVIとダスト発生臨界風速の関係
- P326 野中善政(宮崎大)・川崎拓哉(宮崎大院)他1名 沿岸域における海塩粒子生成率の推定について
- P327 上出一美・眞木貴史(気象庁環境気象) 逆解析を用いた亜大陸規模でのCO<sub>2</sub>月平均フラックスの解析
- P328 高村近子・中澤高清(東北大院理)他4名 森林生態系における酸素濃度と二酸化炭素濃度の変動について
- P329 菅原敏(宮城教育大)・青木周司(東北大院理)他10名 中国における大気中の二酸化炭素とメタンの観測
- P330 小嶋正也・浅野正二(東北大院理)他1名 NOAA-AVHRR データを用いたヤマセ雲の放射変化
- P331 宮崎真(東大生産研)・金元殖(ソウル大)他5名 タイ熱帯モンスーン気候帯におけるMATSIROの1次元オフライン検証実験

## 大会第3日 [5月17日] 11:30 ~ 12:30 ポスターセッション

(~~~~は講演者を表す.)

## PB会場

- P351 一丸知子・廣岡俊彦(九大理)他1名 成層圏突然昇温の予測可能性 ~ 2001/02年と2003/04年の事例の比較~
- P352 真木亮(名大院)・田平誠(愛教大)他3名 総観規模擾乱に伴って観測されるメソスケール気圧擾乱の研究
- P353 内藤歌織・木本昌秀(東大気候システム) 北半球冬季ストームトラックの長周期変動に対する応答
- P354 中島健介(九大理) 積雲対流の大規模組織化の数値実験: 惑星規模の「対流不安定」
- P355 安田延壽(東北大) 大気境界層の相似則と演繹される諸法則
- P356 小谷由由美・杉田倫明(筑波大生命環境) 航空機観測データを用いた混合層分散法による地表面フラックスの推定
- P357 家本薫(筑波大院環境)・松島大(東北大院理)他1名 非一様植生面上での大口径シンチロメーターを用いた地表面熱収支の観測
- P358 中川清隆・渥美裕史(上越教育大自然)他1名 新潟県上越地方日本海沿岸~長野県北部における移動性高気圧下の気圧、気温、風向・風速分布の移動観測の試み
- P359 佐々木葉織(東北農業研究センター)他 山形県庄内地方に発生する局地風清川ダシの現地気象観測(4) - 2004年8月29-30日の風速分布 -
- P360 三宅里香(神戸大自然)・山中大学(神戸大学/IORGC)他1名 六甲山地周辺の局地循環に関する数値シミュレーション
- P361 佐藤均・前田修平(気象庁気候情報)他1名 アジアジェットに捕捉された準定常ロスビー波と日本の天候
- P362 斎藤雄也・石川裕彦(京大防災研) 台風の温帯低気圧化およびそれに伴った豪雨に関する研究
- P363 史野満寿男・中島健介(九大院理) 鉛直シア一場における冷却による渦生成
- P364 藤田浩史・手柴充博(京大生存研)他5名 台風0416号(Chaba)中心付近の構造とその変化
- P365 飯塚駿・筆保弘徳(防災科研) 梅雨期の小低気圧通過頻度について
- P366 和田章義(気象研) 台風に対する海洋の応答-レビュー及び2004年台風シーズンにおける海洋応答-
- P367 佐々木佳明・菊地勝弘(秋田県立大)他1名 レーザースチロメータ(LD-40)による秋田上空の雲底高度の変動-台風16号通過に伴う雲底高度の観測-
- P368 折笠成宏・村上正隆(気象研)他8名 SnowWhite 水蒸気センサーと雲粒子ゾンデによる巻雲の同時観測(序報)
- P369 柴村孝嗣・花田隆(防衛庁)他3名 SAFIRによる小松飛行場周辺における航空機被雷の統計解析
- P370 藤田実季子・城岡竜一(FRCGC)他6名 パラオ諸島における可降水量の日変化
- P371 川口和哉・川野哲也(九大院理)他 梅雨期九州近海上におけるメソ対流系の組織化に関する研究
- P372 張誠忠(名大地球水循環)・上田博(名大地球水循環/IORGC)他2名 Characteristics of mesoscale convective systems associated with the Meiyu front over HuaiHe-Yangtze River transition zone for 2001-2003
- P373 東邦昭・藤井健(京都産業大院理)他1名 京阪神地域で発生・発達する線状降水帯の統計解析
- P374 村井臣哉(気象庁数値予報)・藪将吉(気象庁気候情報) 気象庁現業全球モデルへの新放射スキームの導入
- P375 仲江川敏之(気象研)・金光正郎(スクリップス海洋研究所) PNA領域におけるNCEP季節予報実験結果のクラスター解析
- P376 青木忠生(環境研)・千葉長(気象研)他5名 全球CO<sub>2</sub>地表面フラックス推定における最適な入力衛星データ
- P377 飯田泰久・岡本謙一(大阪府大院工)他2名 マイクロ波放射計を搭載した衛星群から観測される時間空間平均降水強度のサンプリングエラーの推定
- P378 井上豊志郎(気象研)・河本和明(地球研) Meteosat-8による下層雲の雲量と光学的厚さの日変化の事例解析
- P379 阿保真・長澤親生(都立大院工)他1名 赤道上空の雲・エアロゾル・水蒸気のライダー観測
- P380 橋口浩之・手柴充博(京大生存研)他1名 船舶搭載型下部対流圏レーダー(SB-LTR)の開発による赤道西太平洋域大気運動の観測
- P381 吉田幸生・浅野正二(東北大院理)他3名 能動型・受動型センサを組合わせた氷晶を含む雲の微物理量導出アルゴリズムの開発と適用
- P382 鈴木宏謙・上野健一(滋賀県立大環境科学) 太陽光発電における散乱日射の寄与
- P383 Richard E. Passarelli(Sigmat Inc.)・SIGMET JAPAN 他2名 信号処理装置(RVP8)の改善と新しいブランド・クラッター除去技術の開発
- P384 猪木淳(IORGC)・Judith A. Curry(ジョージア工科大) エアロゾンデによる海面水温の連続観測-北極海への応用-
- P385 笹岡雅宏(気象研) 境界層レーダーを用いた水蒸気プロファイル推定の誤差評価のシミュレーション
- P386 高橋康哉(北海道教育大教育実践総合センター) 身近な基礎気象用語を考える~ condensation と deposition, 降水過程を例に~

## 大会第4日〔5月18日〕09:30～11:30 一般口頭発表

(~~~~は講演者を表す)

## A 会場

## 気候システムIV

座長：藤部文昭(気象研)

- A401 福岡義隆(立正大地球環境科学)・丸本美紀(立正大) 夜間から早朝にかけての微昇温に関する気候学的研究
- A402 近藤純正(東北大名誉教授) 温暖化問題と都市気温－研究指針・日本篇
- A403 三上岳彦(都立大理)・安藤晴夫(都環科研)他 5 名 東京の夏期ヒートアイランドに及ぼす海風の効果
- A404 角田知穂・三村和男(東海大教養)他 1 名 北海道における海陸風の日変化
- A405 宮本由美子・三村和男(東海大教養)他 1 名 南岸低気圧に対する関東地方の地形効果－東海大学ではなぜ雪が積もりにくいのか
- A406 藤部文昭・山崎信雄(気象研)他 1 名 日本における降水の日変化形の経年変化 (1898～2003年)
- A407 山崎信雄・高橋清利(気象研) 東アジアにおける短時間強雨の長期傾向
- A408 大和田春樹(東大院) 中国黄土高原における多雨期の降水地域特性
- A409 岩尾航禎・高橋正明(東大気候システム)他 1 名 夏季北東アジア乾燥域における降水量の経年変化と気候変化
- A410 中川由雅(愛知教育大院)・大和田道雄(愛知教育大)他 1 名 温帯低気圧異常発達時の気圧場解析
- A411 石川由紀・大和田道雄(愛知教育大) 東アジアにおける猛暑と冷夏の大気大循環場変動と気圧場解析
- A412 力石國夫・中井剛(弘前大理工) 北米大陸における季節積雪の気候学ならびに降雪と大気循環の関係

## B 会場

## 気象予報

座長：杉 正人(気象庁気候情報)

- B401 杉正人(気象庁気候情報)・仲江川敏之(気象研) マルチモデルアンサンブル法による潜在的予測可能性の推定
- B402 伊賀晋二・富田浩文(FRCGC)他 2 名 水平・鉛直解像度比の不整合によって生じる数値モード
- B403 長瀬亮二・北川裕人(気象庁数値予報) 気象庁非静力学モデルの放射スキームの改良について
- B404 田中小緒里(気象庁数値予報)・熊谷幸浩(気象庁観測システム整備運用室) 気象庁非静力学モデルの地表面パラメータの改良
- B405 彭新東・高橋桂子(地球シミュレータ) Yin-Yang 格子非静力学モデルの湿潤過程検証 (その二)
- B406 大森志郎(気象庁数値予報)・新保明彦(気象庁気候情報)他 1 名 Grell スキームを用いた気象庁非静力学モデルの予報実験
- B407 川畑拓矢・瀬古弘(気象研)他 4 名 雲解像度 NHM-4DVAR を用いたデータ同化実験
- B408 深尾二仁・田中章(岐阜大工)他 2 名 メソ気象モデル MM5 と WRF の予測制度の比較検証
- B409 立原秀一・岡田憲治(気象庁予報)他 2 名 気象庁土壌雨量指数の概要
- B410 中井専人・山口悟(防災科研)他 7 名 新潟県中越地域における 2005 年 1 月から 2 月にかけての降積雪(速報)

## 大会第4日〔5月18日〕09:30～11:30 一般口頭発表

(~~~~は講演者を表す。[OHP]はOHP使用予定講演を示す。)

## C 会場

## 降水システムII

座長：加藤輝之(気象研)

- C401 若月泰孝・安永数明(AESTO)他 5名 水平解像度 5km 非静力学モデルによる領域温暖化予測実験 メソ $\alpha$ スケール擾乱の構造と変化
- C402 金田幸恵(AESTO)・室井ちあし(気象研)他 7名 水平解像度 5km 非静力学モデルによる領域温暖化予測実験 西日本に強雨をもたらす降水システムの特徴
- C403 橋本明弘(AESTO)・村上正隆(気象研)他 9名 水平解像度 5km 非静力学モデルにおける融解層内の凝結強化
- C404 吉崎正憲(気象研) 雲活動の非断熱加熱分布に関する評価法—単純化された線型熱源応答問題
- C405 内藤大輔・坪木和久(名大地球水循環) 湿潤環境場に形成した長寿命の対流雲の維持メカニズム
- C406 鈴木啓介・水野量(気象大)他 1名 TRMM VIRS データによる雲物理量を用いた降水の推定
- C407 B.C. Bhatt・中村健治(名大地球水循環) Precipitation Characteristics around the Himalayas derived from TRMM Observations
- C408 Akramin Zainul・古津年章(島根大)他 4名 東南アジアにおける TBB と雨滴粒径分布の相関関係
- C409 Marzuki・古津年章(島根大)他 4名 The Influence of Intraseasonal Variation on Vertical Profile of Reflectivity(VPR) as Inferred from Zenith Looking Radars at Koto Tabang, West Sumtra
- C410 小笠原麻喜・新野宏(東大海洋研)他 1名 北陸地方における冬季スプライト発生時の気象場の特徴
- C411 林修吾(気象研) 発雷の数値シミュレーションにより得られた日本海冬季雷の発現の有無をもたらす雲物理量の違い
- C412 杉浦幸之助・大畑哲夫(IORGC)他 3名 雪氷圏における光学センサーを用いた固体降水量測定

## D 会場

## 大気力学II

座長：富川喜弘(極地研)

- D401 間瀬博文(個人会員) 低気圧等の気象現象を駆動する「高一低一高」の高温間の引力を証明する室内実験とブーグ異常 [OHP]
- D402 杉本憲彦・石岡圭一(京大院理) f 平面浅水系における非定常なジェットからの重力波放射について—パラメータスイープ実験—
- D403 富川喜弘・佐藤薫(極地研)他 1名 中緯度対流圏界面擾乱の波動的解釈
- D404 北村祐二・石岡圭一(京大院理) 球面浅水系の減衰性乱流から出現する赤道ジェットについての再検討
- D405 小坂洋介・中村尚(東大院理) 月平均場から求めたPJパターンの鉛直構造とその要因

## 観測手法

座長：清水収司(JAXA/EORC)

- D406 井村真悟・古本淳一(京大生存研)他 1名 VHF・UHF 帯大気レーダー複合観測による水蒸気推定法の開発
- D407 藪地信弘・熊谷博(NICT) 雲レーダと他センサーとの複合アルゴリズムによる雲物理量鉛直プロファイルの導出
- D408 Nick Schutgens・熊谷博(NICT) Simulation of Doppler radar signals from first principles
- D409 清水収司・沖理子(JAXA/EORC)他 4名 全球降水観測(GPM)計画と二周波降水レーダ(DPR)の現状
- D410 勝俣昌己・安藤健太郎(IORGC)他 1名 トライトンブイにおける光学式雨量計と静電容量式雨量計の同時長期観測
- D411 柳野健(気象研) 単一ドップラーレーダーによる風の場の詳細復元解析

## 大会第4日〔5月18日〕11:30～12:30 ポスターセッション

(~~~~は講演者を表す。)

## PA会場

- P401 児玉安正・徳田弥夏(弘前大理工) インドネシア海洋大陸西部の大気熱源構造－2004年CPEA-I観測データによる－
- P402 松本隆則(気象庁気候情報) JRA-25 SSM/I データの利用
- P403 小出寛(気象庁気候情報)他 JRA-25 再解析プロダクトの長所と短所
- P404 初鹿宏壮・筒井純一(電中研) JRA-25 再解析プロジェクト再解析における台風位置情報の活用 その3－
- P405 釜根弘隆・山崎信雄(気象研)他 1名 再解析に表現される台風のコンポジット解析
- P406 増田耕一(FRCGC) 大陸規模水収支に関する JRA25再解析の評価
- P407 川島茂人・井上聡(農環研)他 2名 夏期高温時における市街地と水田地域の気温差と両地域の熱収支構造
- P408 近藤裕昭(産総研)・旭一岳(みずほ情報総研)他 2名 マルチスケールモデルによる交差点の拡散解析
- P409 本谷研・徐健青(FRCGC)他 1名 温暖化問題と都市気温－北米気温データの解析
- P410 徐健青・本谷研(FRCGC)他 1名 温暖化問題と都市気温－中国データの解析
- P411 山本奈美(東大院新領域) 関東地方における都市化による豪雨への影響
- P412 佐藤可織・岡本創(東大院理)他 1名 95GHz 雲レーダによる氷晶雲の微物理量の抽出
- P413 穂積栂・植田洋匡(京大防災研)他 1名 数値シミュレーションによる海洋性砂漠緑化の影響評価
- P414 小玉知央・岩崎俊樹(東大院理)他 2名 CO<sub>2</sub> 増加時の Brewer-Dobson 循環の変化～放射による直接効果と SST による間接効果～
- P415 小林あき・前田修平(気象庁気候情報) ハドレー循環でみた季節進行の長期変化傾向
- P416 松枝未遠・田中博(筑波大) 大気の順圧成分の長周期変動に対する EOF/SVD 解析
- P417 山口和貴(東京電力)・野田彰(気象研) 北太平洋域における温暖化の空間パターン ENSO と北極振動
- P418 田中実(気象研) 20世紀におけるアジアモンスーンの長期変動と夏の気温・海面水温の関係
- P419 井上知栄・松本淳(東大院理) インドシナ半島における夏季降水量の経年変動
- P420 山森美穂(NICT)・香川晶子(富士通 FIP)他 7名 夏季北米アラスカにおける対流圏界面直上域のオゾン変動
- P421 Alexandra Griesfeller・江尻省(環境研)他 8名 Validation of ILAS-II data by ground-based FTIR-measurements of HNO<sub>3</sub> and N<sub>2</sub>O at Kiruna
- P422 清野真子・山本哲(気象研)他 2名 タリム盆地におけるダストストームの発生環境 (3)
- P423 畔柳洋子(名大院環境) 黄砂の発生と輸送に関わる東アジア乾燥地域のトラフ変動解析
- P424 千葉長・田中泰宙(気象研)他 3名 風送ダストによる放射強制力
- P425 吉田公一・三浦和彦(東京理科大) 都市及び海洋大気エアロゾルの湿度特性
- P426 佐伯田鶴(地球研)・中澤高清(東大院理)他 1名 全球大気輸送モデルを用いたメタンの数値実験～シナリオの違いによるメタン分布の変動～
- P427 石島健太郎・村山昌平(産総研)他 4名 冷温帯落葉広葉樹林における N<sub>2</sub>O の発生量及びラドンを用いたその物理的要因の推定
- P428 松枝秀和・澤庸介(気象研)他 2名 富士山山頂で2003年春季に観測されたシベリア森林火災による顕著な CO 濃度上昇
- P429 太西将徳・渡辺雅之(京大院人間環境)他 1名 Lorentz モデルによる大気の散乱断面積
- P430 相馬一義(京大院工)・田中賢治(京大防災研)他 2名 夏季の山地域における対流性降水に地表面状態の違いが与える影響
- P431 張霞・中澤高清(東大院理)他 7名 Atmospheric CO<sub>2</sub> variations in the southernmost part of Japan

## 大会第4日〔5月18日〕13:30～17:00 専門分科会

(~~~~は講演者を表す)

### A 会場

#### 「2004年の台風はなぜ異常だったか？」

座長：上野 充(気象研)

- \*A451 萬納寺信崇(気象庁予報) 2004年の台風の記録と特徴
- \*A452 中瀬哲夫(気象研) 2004年台風の発生・日本最多上陸に果たした季節内変動の役割
- \*A453 吉岡真由美(東大海洋研/JAMSTEC)・栗原宜夫(FRCGC) 2004年10月の東アジア域における熱帯低気圧の発生総観場(高解像度全球大気モデルシミュレーション)
- \*A454 谷貝勇(気象大) 地球温暖化の影響を受ける台風、前線、オホーツク海高気圧について
- \*A455 和田章義(気象研) 2004年の日本上陸台風 - 台風強度維持と海面水温場の関係 -
- \*A456 村田昭彦・益子涉(気象研) 2004年台風16号の急発達
- \*A457 吉野純・林雅典(岐阜大院工)他2名 大気-海洋-波浪結合モデルを用いた台風0416号の予報実験
- \*A458 上野充(気象研) 2004年上陸台風域内の降水の非対称と台風移動、鉛直シアーとの関わり

休憩 (15分)

座長：萬納寺信崇(気象庁予報)

- \*A459 山本晴彦(山口大農)・岩谷潔(鳥取大院連合農) 2004年台風15・18号に伴う少雨の特徴と農作物における潮風害の発生実態
- \*A460 佐藤晋介(NICT)・長濱紘子(学芸大)他4名 沖縄偏波降雨レーダー(COBRA)で観測された台風0418号の風速場の特徴
- \*A461 藤部文昭・北島尚子(気象研)他2名 台風0418の強風分布の特徴-台風9119との比較-
- \*A462 北島尚子・星野俊介(気象研)他2名 台風0418の構造と強度の変化、及びそれに対する環境場の影響
- \*A463 遊馬芳雄(北大院理) 北海道に強風をもたらした2004年台風18号の解析
- \*A464 加藤輝之(気象研) 日本海を北上中のT0418の勢力維持機構に関する非静力学モデルを用いた絶対渦度収支解析
- \*A465 益子涉(気象研) 超高解像度非静力学モデルによって再現されたT0418号、T0422号のコア構造
- \*A466 森二正(気象研) 台風0423号(TOKAGE)に伴う雲・降水系の構造と時間変化(序報)

各講演の持ち時間：\*12分、\*\*15分

## 大会第4日 [5月18日] 13:30 ~ 17:00 専門分科会

(~~~~は講演者を表す)

## C 会場

## 「降水量の推定原理と降水量データの利用」

座長：高橋暢宏(NICT)

- C451 井口俊夫・瀬戸心太(NICT)他1名 衛星搭載降雨レーダによる降雨推定の原理と推定誤差
- C452 広瀬正史・清水収司(JAXA/EORC)他1名 TRMM PRによる降雨強度鉛直分布の解析と地表面降水量推定
- C453 山本宗尚(名大院環境)・古澤文江(JST/名大地球水循環)他1名 TRMM データを用いた全球の降水日変化の特徴
- C454 責梨和正(気象研) 衛星搭載マイクロ波放射計 AMSRE 降水強度リトリーバルアルゴリズムの開発 (その3)
- C455 佐々木宏・重尚一(大阪府大院工) 1次元放射伝達モデルを用いた TRMM 降雨プロダクトの物理的検証
- C456 古澤文江(JST/名大地球水循環)・中村健治(名大地球水循環) TRMM PRの降水推定に基づく雨滴粒径分布情報の日周変化と緯度依存性とそのTMI降水推定に及ぼす効果
- C457 Kavirajan Rajendran・中澤哲夫(気象研) Possible source of differences in rainfall estimates of PR and TMI from TRMM 3G68 dataset
- C458 民田晴也・中村健治(名大地球水循環) ミリ波による経路間平均降雨強度の測定

## 休憩 (10分)

座長：中澤哲夫(気象研)

- C459 高菟緑(東大気候システム)・古津年章(島根大総理工)他1名 降雨特性の指標となるものー OLR・雷・降雨量・降雨強度・降雨頂高度の関係
- C460 牛尾知雄・岡本謙一(大阪府立大)他7名 マイクロ波放射計及び静止気象衛星の赤外放射計データによる全球降水マップの試作
- C461 谷田具亜紀代(地球研)・Pingping Xie(NOAA/CPC)他1名 東アジアグリッド日降水データの検証
- C462 黒良龍太・國次雅司(気象庁予報)他2名 レーダー・アメダス解析雨量の概要
- C463 杉浦伊織・國次雅司(気象庁予報)他2名 気象庁降水ナウキャストの概要
- C464 田中信行・西垣語人(気象庁予報)他2名 流出雨量指数の概要
- C465 松本隆則(気象庁気候情報) 気象庁気候情報課における衛星データの利用ー降水モニタリング

## 総合討論 (20分)

各講演の持ち時間：12分

## 大会第4日〔5月18日〕13:30～17:00 専門分科会

(~~~~は講演者を表す)

D 会場  
「雪氷圏と気候」

座長：大畑哲夫 (IORGC)

## はじめに

\*\*D451 大畑哲夫 (IORGC) 雪氷圏と気候システムの関わりについての研究の現状と課題、および研究推進

## 陸面過程

\*\*D452 山崎剛 (IORGC) 積雪モデルを中心とした雪氷圏陸面過程研究の現状と今後の課題

\*D453 青木輝夫 (気象研)・堀雅裕 (JAXA/EORC) 他 10 名 ADEOS-II/GLI 雪氷プロダクト検証結果

\*D454 平島寛行・佐藤篤司 (防災科研) 他 3 名 北極における陸面水循環過程のモデリング

\*D455 上野健二 (滋賀県立大環境)・田中健路 (熊本大) 他 2 名 冬季チベット高原での水循環過程に関する研究課題

\*D456 広田知良・岩田幸良 (北海道農研) 他 9 名 北海道・道東地方の積雪・土壌凍結深の長期変動傾向の予測と農業に及ぼす影響評価へ向けて

\*D457 鈴木和良・山崎剛 (IORGC) 他 2 名 室内実験による弱風条件下での樹体着雪量のパラメーター化

## 降雪・気候

\*D458 安成哲平 (北大院地球環境)・白岩孝行 (北大低温研) 他 6 名 雪氷コア中のダスト濃度に基づく降雪量の季節配分の復元：アラスカ・ランゲル山の事例

\*D459 鈴木博人 (JR 東日本) 新潟県および山形県西部における降積雪量と大雪の出現頻度の経年変化

\*D460 横山宏太郎・小南靖弘 (中央農研北陸) 他 1 名 冬季降水量の捕捉損失について

\*D461 石坂雅昭 (防災科研) 雪氷圏における日本の温暖積雪地域の特異性と近年の変化

## 休憩 (15 分)

座長：山崎孝治 (北大院地球環境)

## 海水域

\*\*D462 榎本浩之 (北見工大) 北極圏の海水変動と気候変化

## 大気循環

\*\*D463 山崎孝治・大島和裕 (北大院地球環境) 極域における大気水循環と環状モード

\*D464 斎藤和之 (FRCGC)・安成哲三 (FRCGC/名大) 他 1 名 大陸規模積雪－大気循環場の年々規模共変動とその変化

\*D465 太田和裕・山崎孝治 (北大院地球環境) 極域における P-E の季節変化の要因

\*D466 丸石國夫・中里春香 (弘前大理工) 北半球の山岳積雪の経年変動

## 氷床域

\*D467 佐藤薫 (極地研) 南極昭和基地の気象

\*D468 平沢尚彦・本山秀明 (極地研) 他 2 名 南極の水循環

## 総合討論 (10 分)

各講演の持ち時間：\*10 分，\*\*15 分

## 講演者索引

## &lt;A&gt;

Abo Makoto(阿保真) P379  
 Adhikari Nanda P280  
 Aiki Hidenori(相木秀則) D303  
 Akasaka Ikumi(赤坂郁美) P218  
 Akiyama Yukari(秋山祐佳里) P206  
 Akiyoshi Hideharu(秋吉英治) B103  
 Ando Haruo(安藤晴夫) P205  
 Aoki Tadao(青木忠生) P376  
 Aoki Teruo(青木輝夫) D453  
 Aonashi Kazumasa(青梨和正) C257  
 Aonashi Kazumasa(青梨和正) C454  
 Arai Miki(荒井美紀) P316  
 Arakawa Osamu(荒川理) A207  
 Arao Kimio(荒生公雄) P124  
 Arai Suguru(有井卓) P255  
 Asanuma Jun(浅沼順) P256  
 Asuma Yoshio(遊馬芳雄) A463  
 Asuma Yoshio(遊馬芳雄) P166

## &lt;B&gt;

Bhatt B. C. C407

## &lt;C&gt;

Chiba Masaru(千葉長) P424  
 Chono Yohci(蝶野洋平) P167  
 Chubachi Shigeru(忠鉢繁) B104

## &lt;D&gt;

Dairaku Koji(大楽浩司) A103  
 Deushi Makoto(出牛真) P321  
 Du Mingyuan(杜明遠) P123

## &lt;E&gt;

Eguchi Nawo(江口菜穂) B202  
 Eito Hisaki(永戸久喜) B255  
 Ejiri Mitsumu(江尻省) P121  
 Endo Nobuhiko(遠藤伸彦) P322  
 Endo Satoshi(遠藤智史) P158  
 Enomoto Hiroyuki(榎本浩之) D462  
 Enomoto Takeshi(榎本剛) C254

## &lt;F&gt;

Fudeyasu Hironori(筆保弘徳) P302  
 Fujibe Fumiaki(藤部文昭) A406  
 Fujibe Fumiaki(藤部文昭) A461  
 Fujita Hiroshi(藤田浩史) P364  
 Fujita Mikiko(藤田実季子) P370  
 Fukabori Masashi(深堀正志) P230  
 Fukao Kazuhito(深尾一仁) B408  
 Fukuda Masato(福田真人) B107  
 Fukuda Yoshikazu(福田義和) P117  
 Fukuhara Tetsuya(福原哲哉) P153  
 Fukuoka Yoshitaka(福岡義隆) A401  
 Furumoto Junichi(古本淳一) P181  
 Furuzawa Fumie(古澤文江) C456

## &lt;G&gt;

Gamo Minoru(蒲生稔) P128  
 Goda Yasuhiro(合田泰弘) C309  
 Griesfeller Alexandra P421

## &lt;H&gt;

Harada Yayoi(原田やよい) P162  
 Hasegawa Hiroshi(長谷川寛) P110  
 Hashiguchi Hiroyuki(橋口浩之) P380  
 Hashimoto Akihiro(橋本明弘) A210  
 Hashimoto Akihiro(橋本明弘) C403  
 Hashimoto Atsushi(橋本篤) P156  
 Hatsushika Hiroaki(初鹿宏壮) D102  
 Hatsushika Hiroaki(初鹿宏壮) P404  
 Hayasaki Masamitsu(早崎将光) P262  
 Hayashi Syugo(林修吾) C411  
 Higashi Hironori(東博紀) P101  
 Higashi Kuniaki(東邦昭) P373  
 Hiramatsu Kazuhiko(平松和彦) P186  
 Hirasawa Naohiko(平沢尚彦) D468  
 Hirashima Hiroyuki(平島寛行) D454  
 Hirayama Yosuke(平山陽介) P164  
 Hirose Masafumi(広瀬正史) C452  
 Hirota Nagio(廣田渚郎) P119  
 Hirota Tomoyoshi(広田知良) D456  
 Hiyama Tetsuya(檜山哲哉) P122  
 Hoshino Shunsuke(星野俊介) P263  
 Hozumi Yu(穂積祐) P413

## &lt;I&gt;

Ichimaru Tomoko(一丸知子) P351  
 Ichino Mika(市野美夏) P203  
 Iemoto Kaoru(家本薫) P357  
 Iga Shinichi(伊賀晋一) B402  
 Igarashi Hiromichi(五十嵐弘道) A265  
 Iguchi Toshio(井口俊夫) C451  
 Iida Yasuhisa(飯田泰久) P377  
 Iizawa Isao(飯澤功) P305  
 Iizuka Satoshi(飯塚聡) P104  
 Iizuka Satoshi(飯塚聡) P365  
 Ikeda Shoichiro(池田祥一郎) C312  
 Imamura Takeshi(今村剛) D310  
 Imura Shingo(井村真悟) D406  
 Inagaki Atsushi(稲垣厚至) D205  
 Inatsu Masaru(稲津将) A306  
 Inoue Jun(猪上淳) B253  
 Inoue Jun(猪上淳) P384  
 Inoue Tadao(井上忠雄) P107  
 Inoue Tomoshige(井上知栄) A260  
 Inoue Tomoshige(井上知栄) P419  
 Inoue Toshiro(井上豊志郎) P183  
 Inoue Toshiro(井上豊志郎) P378  
 Ishida Nobuhiro(石田信浩) A266  
 Ishida Shinichi(石田晋一) D301  
 Ishii Nobuyuki(石井伸幸) P111  
 Ishii Shoken(石井昌憲) P179

Ishijima Kentaro(石島健太郎) P427  
 Ishikawa Yuki(石川由紀) A411  
 Ishimizu Takahisa(石水尊久) P324  
 Ishizaka Masaaki(石坂雅昭) D461  
 Ishizaki Noriko(石崎紀子) P320  
 Itano Toshihisa(板野稔久) P155  
 Ito Akihiko(伊藤昭彦) D255  
 Ito Aya(伊藤文) P307  
 Itoh Hisanori(伊藤久徳) D101  
 Iwabuchi Hironobu(岩淵弘信) P130  
 Iwao Koki(岩尾航希) A409  
 Iwasaki Hiroyuki(岩崎博之) P219

## &lt;K&gt;

Kai Kenji(甲斐憲次) B208  
 Kai Kenji(甲斐憲次) P261  
 Kajikawa Yoshiyuki(梶川義幸) P319  
 Kajino Mizuo(梶野瑞王) B306  
 Kakudate Takeshi(角館剛) P259  
 Kamahori Hirotaka(釜堀弘隆) P405  
 Kamiguchi Kenji(上口賢治) A206  
 Kanada Sachie(金田幸恵) C402  
 Kanamori Hironari(金森大成) P220  
 Kanega Masahiko(金賀将彦) P309  
 Kaneyasu Naoki(兼保直樹) B303  
 Kato Teruyuki(加藤輝之) A464  
 Kato Teruyuki(加藤輝之) B258  
 Kato Tomomichi(加藤知道) P227  
 Katsumata Masaki(勝俣昌己) D410  
 Kawabata Takuya(川畑拓矢) B407  
 Kawabe Tomokazu(川邊智一) P207  
 Kawaguchi Kazuya(川口和哉) P371  
 Kawai Toru(河合徹) D204  
 Kawamura Ryuichi(川村隆一) A258  
 Kawashima Shigetō(川島茂人) P407  
 Kazaoka Ryo(風岡亮) B203  
 Kihara Naoto(木原直人) D207  
 Kikuchi Nobuhiro(菊地信弘) D407  
 Kikuchi Nobuyuki(菊地信行) P178  
 Kita Kazuyuki(北和之) B106  
 Kitabatake Naoko(北島尚子) A462  
 Kitamura Ayako(北村彩子) P177  
 Kitamura Yuji(北村祐二) D404  
 Kitoh Akio(鬼頭昭雄) A208  
 Kobayashi Chiaki(小林ちあき) P415  
 Kobayashi Eriko(古林絵里子) P221  
 Kodama Chihiro(小玉知央) P414  
 Kodama Yasumasa(児玉安正) P401  
 Kodama Yuji(兒玉裕二) P231  
 Kodaera Kunihiko(小寺邦彦) A303  
 Koide Hiroshi(小出寛) A253  
 Koide Hiroshi(小出寛) P403  
 Koishi Kazunari(小石和成) C103  
 Koizumi Hiroshi(小泉博) D256  
 Komori Masaya(小嶋正也) P330  
 Komori Nobumasa(小守信正) P318

- Kondo Hiroaki(近藤裕昭) P408  
 Kondo Junsei(近藤純正) A402  
 Konishi Masaya(小西雅也) P277  
 Kosaka Yosuke(小坂洋介) D405  
 Koseki Shunya(古関俊也) A305  
 Koshiro Tsuyoshi(神代剛) A311  
 Kotani Ayumi(小谷亜由美) P356  
 Kousaka Yuuki(高坂裕貴) P174  
 Kubota Hisayuki(久保田尚之) P303  
 Kubota Masahisa(久保田雅久) A255  
 Kubota Minoru(久保田実) P152  
 Kurita Naoyuki(栗田直幸) A310  
 Kurita Susumu(栗田進) P108  
 Kuroda Yuhji(黒田友二) A302  
 Kurora Ryuta(黒良龍太) C462  
 Kurosaki Yasunori(黒崎泰典) P325  
 Kuroyanagi Yoko(畔柳洋子) P423  
 Kusunoki Kenichi(楠研一) C303  
 Kusunoki Shoji(楠昌司) A201  
 Kusunoki Shoji(楠昌司) A202  
 Kyouda Masayuki(経田正幸) C253
- <M>  
 Mabuchi Kazuo(馬淵和雄) D202  
 Maejima Yasumitsu(前島康光) D304  
 Maki Takashi(真木貴史) P327  
 Mannoji Nobutaka(萬納寺信崇) A451  
 Mano Yuki(真野佑輝) P257  
 Marzuki C409  
 Mase Hirofumi(間瀬博文) D401  
 Mashiko Wataru(益子渉) A465  
 Masuda Kooiti(増田耕一) P406  
 Masuda Shuhei(増田周平) A264  
 Masuda Yoshitaka(増田佳孝) P223  
 Matsubayashi Kengo(松林健吾) P254  
 Matsueda Hidekazu(松枝秀和) P428  
 Matsueda Mio(松枝未遠) P416  
 Matsumi Yutaka(松見豊) P224  
 Matsumoto Takanori(松本隆則) C465  
 Matsumoto Takanori(松本隆則) P402  
 Matsumoto Yuko(松本優子) P102  
 Matsunuma Masaaki(松沼政明) P182  
 Matsushima Dai(松島大) D201  
 Matsushima Kazuhiro(松島和宏) D308  
 Matsuura Hirokazu(松浦弘和) C207  
 Mikami Takehiko(三上岳彦) A403  
 Mimura Kazuo(三村和男) A404  
 Mimura Kazuo(三村和男) A405  
 Minda Haruya(民田晴也) C458  
 Miura Hiroaki(三浦裕亮) C206  
 Miyakawa Takuma(宮川拓真) P125  
 Miyake Satoka(三宅里香) P360  
 Miyazaki Chihiro(宮崎千尋) P217  
 Miyazaki Maki(宮崎真希) P258  
 Miyazaki Shin(宮崎真) P331  
 Miyazaki Yasuhiko(宮崎保彦) P163  
 Miyazaki Yuzo(宮崎雄三) P126  
 Mizuta Ryo(水田亮) A209  
 Mochizuki Takashi(望月崇) A263
- Momose Haruyuki(百瀬晴行) C107  
 Mori Atsushi(森厚) D302  
 Mori Kazumasa(森一正) A466  
 Mori Kazumasa(森一正) C205  
 Mori Mariko(森真理子) P172  
 Morimoto Shinji(森本真司) P229  
 Morino Yu(森野悠) B308  
 Morita Masamitsu(森田正光) C201  
 Moriwaki Ryo(森脇亮) P310  
 Moteki Qoosaku(茂木耕作) B257  
 Motoi Tatsuo(本井達夫) A106  
 Motoya Ken(本谷研) P409  
 Mukougawa Hitoshi(向川均) C251  
 Murai Shigeki(村井臣哉) P374  
 Murakami Masataka(村上正隆) B252  
 Murakami Shigenori(村上茂教) A107  
 Murata Akihiko(村田昭彦) A456  
 Murayama Shohei(村山昌平) P127  
 Murazaki Kazuyo(村崎万代) P213
- <N>  
 Nagai Shin(永井信) P212  
 Nagasawa Chikao(長澤親生) D104  
 Nagasawa Ryoji(長澤亮二) B403  
 Naito Daisuke(内藤大輔) C405  
 Naito Kaori(内藤歌織) P353  
 Naito Yoko(内藤陽子) D106  
 Nakaegawa Tosiyuki(仲江川敏之) P214  
 Nakaegawa Tosiyuki(仲江川敏之) P375  
 Nakagawa Kenichi(中川憲一) D103  
 Nakagawa Kiyotaka(中川清隆) P358  
 Nakagawa Shintaro(中川晋太郎) P154  
 Nakagawa Yuka(中川由雅) A410  
 Nakai Sento(中井専入) B410  
 Nakajima Hideaki(中島英彰) B102  
 Nakajima Kensuke(中島健介) P354  
 Nakamura Kenji(中村憲司) P120  
 Nakamura Tetsu(中村哲) A304  
 Nakamura Yoshitaka(中村佳敬) P269  
 Nakano Masuo(中野満寿男) P363  
 Nakata Junko(中田淳子) P131  
 Nakata Toshimi(仲田季寧) P284  
 Nakazawa Tetsuo(中澤哲夫) A452  
 Naoe Hiroaki(直江寛明) B302  
 Niino Hiroshi(新野宏) C410  
 Niino Hiroshi(新野宏) D206  
 Ninomiya Kozo(二宮洗三) A102  
 Nishida Kenlo(西田顕郎) D254  
 Nishigaki Tsuguhito(西垣語人) P173  
 Nishikawa Masanori(西川将典) P222  
 Nishizawa Tomoaki(西澤智明) P279  
 Niwano Masanori(庭野将徳) B310  
 Niwano Masashi(庭野匡思) P265  
 Nohara Daisuke(野原大輔) A104  
 Nohguchi Yasuaki(納口恭明) P185  
 Nonaka Yoshimasa(野中善政) P326
- <O>  
 Oda Ryoko(小田僚子) P209  
 Ogawa Hiroko(小川弘子) P308  
 Ohata Tetsuo(大畑哲夫) D451  
 Ohigashi Tadayasu(大東忠保) B254  
 Ohmori Shiro(大森志郎) B406  
 Ohno Yuichi(大野裕一) C304  
 Oita Shinji(大板慎司) P112  
 Okada Kikuo(岡田菊夫) B301  
 Okamoto Hajime(岡本創) A101  
 Okamoto Kenichi(岡本健一) A105  
 Okubo Saki(大久保沙貴) P129  
 Okuda Tomohiro(奥田智洋) P267  
 Okura Arata(大蔵革) P273  
 Onishi Masanori(大西将徳) P429  
 Ono Kosaku(小野耕作) P306  
 Onogi Kazutoshi(大野木和敏) A251  
 Oouchi Kazuyoshi(大内和良) A204  
 Orikasa Narihiro(折笠成宏) P368  
 Oshima Kazuhiro(大島和裕) D465  
 Oshima Naga(大島長) B105  
 Owada Haruki(大和田春樹) A408  
 Owada Michio(大和田道雄) B309
- <P>  
 Pang Xiaomei P215  
 Peng Xin Dong(彭新東) B405  
 Prasad V.S. A309
- <R>  
 Rajendran Kavirajan C457  
 Reddy K. Krishna P169  
 Rikiishi Kunio(力石國夫) A412  
 Rikiishi Kunio(力石國夫) D466
- <S>  
 Saeki Kosuke(佐伯浩介) B101  
 Saeki Tazu(佐伯田鶴) P426  
 Saigusa Nobuko(三枝信子) P228  
 Saito Kazuo(斎藤和雄) P175  
 Saito Kazuyuki(斎藤和之) D464  
 Saito Yuya(斎藤雄也) P362  
 Sakakibara Yasushi(榊原保志) P109  
 Sakamoto Masami(坂本雅巳) A252  
 Sakurai Namiko(櫻井南海子) P264  
 Sasaki Hidetaka(佐々木秀孝) P114  
 Sasaki Hiroshi(佐々木宏) C455  
 Sasaki Kaori(佐々木華織) P260  
 Sasaki Kaori(佐々木華織) P359  
 Sasaki Yoshiaki(佐々木佳明) P367  
 Sasaoka Masahiro(笹岡雅宏) P285  
 Sasaoka Masahiro(笹岡雅宏) P385  
 Sato Hitoshi(佐藤均) P361  
 Sato Kaori(佐藤可織) P412  
 Sato Kaoru(佐藤薫) D467  
 Sato Naoki(佐藤尚毅) A307  
 Sato Naoki(佐藤尚毅) D210  
 Sato Tomonori(佐藤友徳) P165  
 Satoh Shinsuke(佐藤晋介) A460  
 Sawa Yousuke(澤庸介) B201  
 Schutgens Nick D408

- Seiki Ayako(清木 亜矢子) P201  
 Seino Naoko(清野直子) P422  
 Seki Takanori(関隆則) P115  
 Seki Takanori(関隆則) P315  
 Sekisawa Shinya(関澤信也) P180  
 Seko Hiromu(瀬古弘) P275  
 Seto Shinta(瀬戸心太) P276  
 Setouchi Hiroshi(瀬戸内博視) P184  
 Shiba Sadataka(芝定孝) B210  
 Shibata Kiyotaka(柴田清孝) D107  
 Shimada Susumu(嶋田進) P157  
 Shimazaki Keiko(島崎景子) P282  
 Shimizu Shingo(清水慎吾) C311  
 Shimizu Shuji(清水収司) D409  
 Shimose Kenichi(下瀬健一) P170  
 Shimura Takatsugu(柴村孝嗣) P369  
 Shirooka Ryuichi(城岡竜一) C301  
 Shoji Yoshinori(小司慎教) C256  
 Shoji Yoshinori(小司慎教) P278  
 Sismet Japan(シグメットジャパン) P383  
 Souma Kazuyoshi(相馬一義) P430  
 Sugawara Satoshi(菅原敏) P329  
 Sugi Masato(杉正人) B401  
 Sugimoto Norihiko(杉本憲彦) D402  
 Sugita Michiaki(杉田倫明) D251  
 Sugiura Iori(杉浦伊織) C463  
 Sugiura Konosuke(杉浦幸之助) C412  
 Sugiura Nozomi(杉浦望実) A262  
 Suizu Rei(水津玲) P252  
 Suweda Tatsuo(末田達彦) D253  
 Suzuki Hironori(鈴木宏謙) P382  
 Suzuki Hiroto(鈴木博人) D459  
 Suzuki Kazue(鈴木香寿恵) B204  
 Suzuki Kazuyoshi(鈴木和良) D457  
 Suzuki Keisuke(鈴木啓介) C406  
 Suzuki Kenji(鈴木賢士) P268  
 Suzuki Kikuo(鈴木菊男) C305  
 Suzuki Shin(鈴木臣) P253  
 Suzuki Tomoyuki(鈴木智幸) P168
- <T>  
 Tachihara Shuichi(立原秀一) B409  
 Tagami Hirotaka(田上浩孝) P272  
 Taguchi Masakazu(田口正和) P312  
 Tahira Makoto(田平誠) P352  
 Takada Naoki(高田直樹) P283  
 Takahashi Chiharu(高橋千陽) P106  
 Takahashi Hiroshi(高橋洋) A308  
 Takahashi Hitoshi(高橋仁) P281  
 Takahashi Kiyotoshi(高橋清利) A257  
 Takahashi Kiyotoshi(高橋清利) P103  
 Takahashi Nobuhiro(高橋暢宏) P266  
 Takahashi Tsuneya(高橋庸哉) P286  
 Takahashi Tsuneya(高橋庸哉) P386  
 Takamura Chikako(高村近子) P328  
 Takayabu Izuru(高敷出) P314  
 Takayabu Yukari(高薮縁) C459  
 Takegawa Nobuyuki(竹川暢之) B307  
 Takemi Tetsuya(竹見哲也) B206
- Takemi Tetsuya(竹見哲也) C255  
 Takeuchi Nobuo(竹内延夫) B305  
 Tanaka Akira(田中章) P274  
 Tanaka Hiroshi(田中博) A301  
 Tanaka Minoru(田中実) P418  
 Tanaka Nobuyuki(田中知行) C464  
 Tanaka Saori(田中小緒里) B404  
 Tanaka Taichu(田中泰宙) P225  
 Tanaka Tomoaki(田中智章) P176  
 Tanio Motofusa(谷尾元聡) P301  
 Tokairin Takayuki(東海林孝幸) P208  
 Tomikawa Yoshihiro(富川喜弘) D403  
 Tomikawa Yoshihiro(富川喜弘) P251  
 Tomita Hirofumi(富田浩文) D306  
 Tomita Tomohiko(富田智彦) P116  
 Tsubota Yukimasa(坪田幸政) C209  
 Tsuguchi Hiroshige(津口裕茂) C307  
 Tsunematsu Nobumitsu(常松展充) B207  
 Tsuruta Haruo(鶴田治雄) B304  
 Tsutsui Junichi(筒井純一) A261
- <U>  
 Uchiyama Takao(内山貴雄) A205  
 Uehara Megumi(上原恵) P211  
 Ueno Kenichi(上野健一) D455  
 Ueno Mitsuru(上野充) A458  
 Umeda Yoshiko(梅田佳子) B209  
 Umemoto Yasuko(梅本泰子) B256  
 Umetani Kazuhiro(梅谷和弘) P304  
 Ushio Tomoo(牛尾知雄) C460  
 Ushiyama Tomoki(牛山朋来) C302
- <W>  
 Wada Akiyoshi(和田章義) A455  
 Wada Akiyoshi(和田章義) P366  
 Wada Yutaka(和田豊) P171  
 Wakata Yoshinobu(和方吉信) D305  
 Wakazuki Yasutaka(若月泰孝) C401  
 Watanabe Akira(渡辺明) P160  
 Watanabe Shingo(渡辺真吾) D105  
 Watarai Yasushi(渡来靖) A259
- <X>  
 Xu Jianqing(徐健青) P410
- <Y>  
 Yagai Isamu(谷貝勇) A454  
 Yagi Koji(八木晃司) P161  
 Yamada Tetsuji(山田哲二) D203  
 Yamada Yoshinori(山田芳則) C306  
 Yamada Yukiko(山田由貴子) C104  
 Yamaga Kohei(山鹿康平) P118  
 Yamaguchi Kazuki(山口和貴) P417  
 Yamaguchi Munchiko(山口宗彦) C252  
 Yamaguchi Takako(山口隆子) P202  
 Yamamori Miho(山森美穂) P420  
 Yamamoto Haruhiko(山本晴彦) A459  
 Yamamoto Haruhiko(山本晴彦) P311  
 Yamamoto Masaru(山本勝) D309
- Yamamoto Masaru(山本勝) P151  
 Yamamoto Masayuki(山本真之) P105  
 Yamamoto Munehisa(山本宗尚) C453  
 Yamamoto Nami(山本奈美) P411  
 Yamamoto Susumu(山本晋) D252  
 Yamamoto Takashi(山本享) P323  
 Yamanaka Manabu(山中大学) D307  
 Yamanaka Noriko(山中のり子) B205  
 Yamane Yusuke(山根悠介) P270  
 Yamanouchi Akiko(山内明子) D208  
 Yamanouchi Akiko(山内明子) D209  
 Yamasaki Masanori(山岬正紀) C204  
 Yamashita Yousuke(山下陽介) D311  
 Yamazaki Koji(山崎孝治) D463  
 Yamazaki Nobuo(山崎信雄) A407  
 Yamazaki Takeshi(山崎剛) D452  
 Yanagino Takeshi(柳野健) D411  
 Yanase Wataru(柳瀬亘) P113  
 Yasuda Nobuhisa(安田延壽) P355  
 Yasunaga Kazuaki(安永数明) C208  
 Yasunari Teppei(安成哲平) D458  
 Yatagai Akiyo(谷田貝亜紀代) A254  
 Yatagai Akiyo(谷田貝亜紀代) C461  
 Yokogi Ken(横木研) C203  
 Yokoi Satoru(横井寛) C105  
 Yokomori Junichi(横森淳一) C101  
 Yokomori Junichi(横森淳一) C102  
 Yokoyama Hitoshi(横山仁) P204  
 Yokoyama Kotaro(横山宏太郎) D460  
 Yokoyama Naomi(横山直美) P317  
 Yoneda Jiro(米田次郎) C310  
 Yoneda Souhei(米田宗平) P271  
 Yoneyama Kunio(米山邦夫) C106  
 Yoshida Akira(吉田聡) P313  
 Yoshida Koichi(吉田公一) P425  
 Yoshida Masumi(吉田真純) P159  
 Yoshida Yukio(吉田幸生) P381  
 Yoshikawa Toshifumi(吉川敏文) C202  
 Yoshimura Jun(吉村純) A203  
 Yoshimura Kei(芳村圭) A256  
 Yoshino Jun(吉野純) A457  
 Yoshioka Mayumi(吉岡真由美) A453  
 Yoshizaki Masanori(吉崎正憲) B251  
 Yoshizaki Masanori(吉崎正憲) C404  
 Yougai Toshiro(用貝敏郎) C308  
 Yukimoto Seiji(行本誠史) P216
- <Z>  
 Zainul Akramin C408  
 Zhang Cheng-zhong(張誠忠) P372  
 Zhang Daizhou(張代洲) P226  
 Zhang Xia(張霞) P431  
 Zhang Yinsheng(張寅生) P210